

聖徒の道

1989年8月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊物です。本書は以下の言語で出版されています。月間——イタリヤ語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

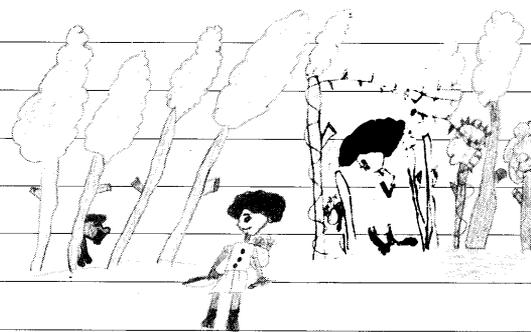
大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン
 十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジエームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット
 顧問：ヒュー・W・ピノック、ジーン・R・クック、ウィリアム・R・ブラッドフォード、ジョージ・P・リー、キース・W・ウィルコックス
 編集長：ヒュー・W・ピノック
 教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン
 編集主幹：ブライアン・K・ケリー
 編集副主幹：デビッド・ミッチェル
 編集主管補佐：アン・レムリン
 編集主幹補佐／子どものページ：
 ディエーン・ウオーカー
 アート・ディレクター：M・マサト・カワサキ
 デザイナー：シエリー・クック
 制作：シドニー・N・マクドナルド、レジナルド・J・クリステンセン、ジーン・アン・ケンブ、ティモシー・シエバード、ステイブン・デイトン
 配送部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道 1989年8月号第33巻第8号
 発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
 〒106東京都港区南麻布5-10-30
 電話 03-440-2351
 印刷所 株式会社 精興社
 定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
 半年予約1,100円(送料共)
 普通号150円、大会号350円
 International Magazine PBMA 8908JA
 Printed in Tokyo, Japan.
 Copyright © 1989 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.
 ●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課☎03-440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター☎044-811-0417

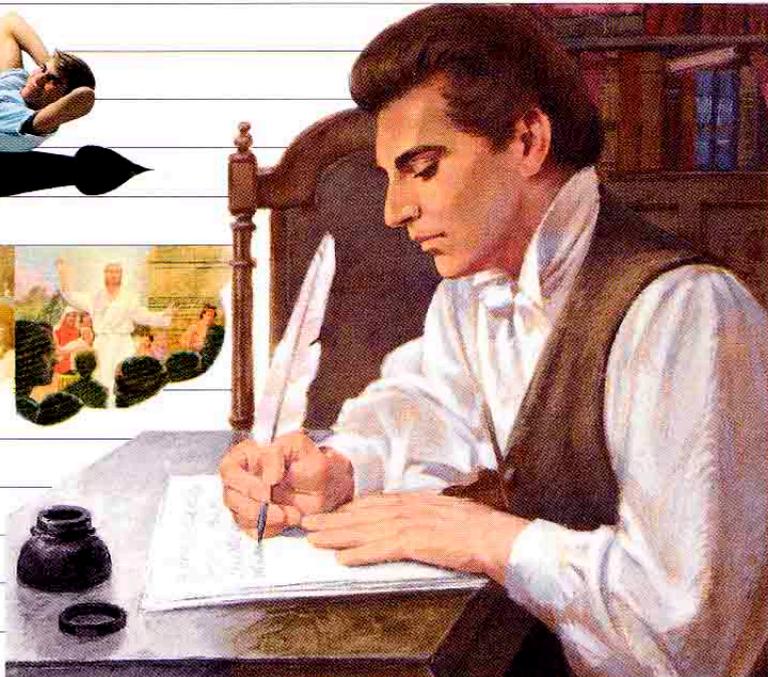
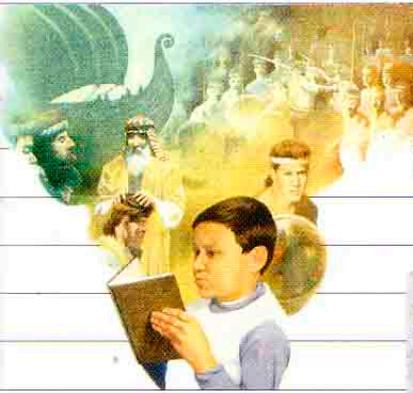
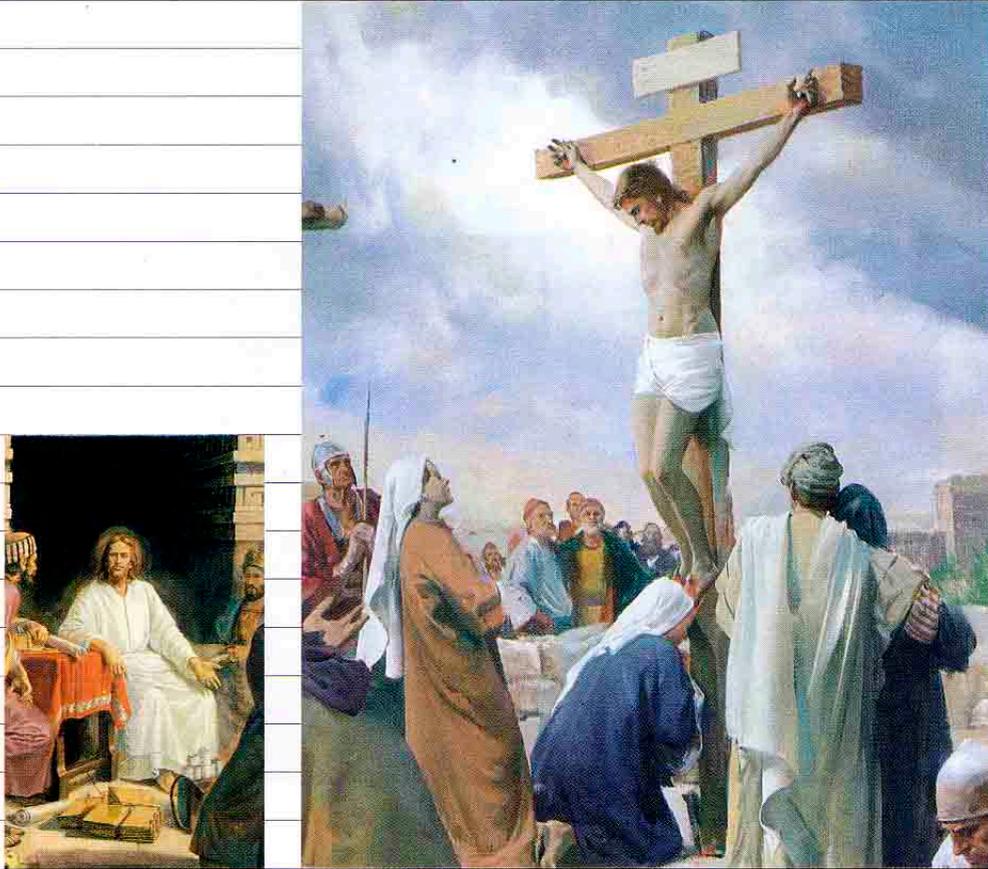
The *Seito no Michi* is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Application to mail at second class postage rates is pending at Salt Lake City, Utah. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.
 POSTMASTER: Send address changes to *Seito no Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

●—もくじ

大管長会メッセージ		
「神の方式と御旨」	ゴードン・B・ヒンクレー	2
家庭訪問メッセージ		
「群れへ戻す」		7
子供のいない家族の方々へ	アーデス・G・カップ	8
子供の歌：『ぼくはむかし』	ジャニーン・J・ブラディー	13
両親のために——どのようなときに		
教会を休むべきか	グレン・C・グリフィン	14
失われた真理の回復——その1	ギルバート・W・シャーフス	15
最も興味ある書物		
アンナ・ナダスディ	ブレイン・E・アンダーソン	21
「一時間だけにしよう」	ロバート・K・レイ	23
独身者の家庭の夕べ		
ティンパノゴス山での一夜	スコット・カーリン	28
モルモン経——子育てのガイド	ゲリー・プリンリー	32
青少年のページ		
また酔っ払ってる	アン・ローレンス	37
時間——神よりの遺産	ヘンリー・B・アイリング	44
強い力	F・エンツィオ・ブッシュェ	45
「安心せよ」	ジーナ・パーキンソン・ベアード	48
子どものページ		
せかいのおともだち		2
答えられたいのり	キコ・カンダッテン	4
教義と聖約ものがたり——什分の一		7



表紙の説明——1830年に刊行され
たモルモン経初版の原本。今月号
の『失われた真理の回復』参照。
フィル・シャートレフ撮影。

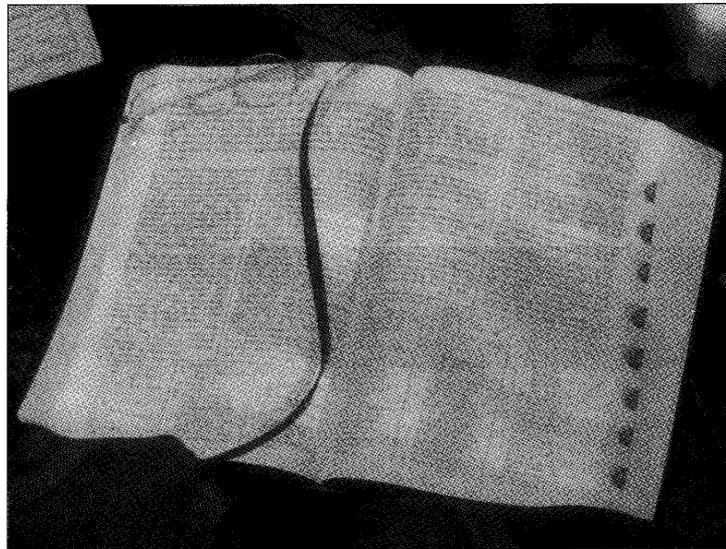


「神の方式と御旨」

第一副管長

ゴードン・B・ヒンクレー

教義と聖約は
天の知恵が
あふれた輝かしい
書物であり、
この代の人々に
向けられた
神のみ言葉が
載せられています。



高価なる真珠には旧約聖書の創世記、新約聖書のマタイによる福音書24章から失われたすばらしいみ言葉が詳細に載せられています。また高価なる真珠には、予言者ジョセフ・スミスの生涯に関して、初期のころの感動的な出来事も載せられています。

教会の憲章

教義と聖約は私たちに与えられている聖典の中でも

ひととき^{いさい}異彩を放っています。教義と聖約には様々な文書や声明が載せられ、その出所も様々です。しかし、基本的には、この神権時代の予言者を通して与えられた啓示の書です。

この啓示の書の冒頭には、末日の偉大な回復のみ業に関する神のみことろについて、包括的な力強い宣言がなされています。

「^き聴け、^{なんじ}汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ。曰く、^い誠にわれ告ぐ、汝ら民よ、^{はる}遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがる者なし。目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなく、心として刺し貫かれざるはなし。」(教義と聖約1：1-2)

この栄えあるみ言葉に続いて、永遠の真理の泉から発した驚くべき教えが、壮大なパノラマのように繰り広げられていきます。主がそのみ声をもって予言者に直接与えられた啓示もあれば、ジョセフ・スミスが聖霊に感じるままに

今年、教会員は皆、教義と聖約を学んでいます。何百という多くの国々の教会員が、教義と聖約の靈感あふれるすばらしいメッセージを学び、深く考えています。教義と聖約は、天の知恵の言葉が満ちあふれた輝かしい書物であり、今の代に生きる私たちに与えられた神のみ言葉が載せられています。

標準聖典はどれも、神につける事柄を理解するのに欠かすことのできないものです。聖書は私たちの信仰の基です。旧約聖書には古代の予言者を通して与えられたエホバのみ言葉が記され、新約聖書には美しい言葉で、人類の救い主の類ない生涯と犠牲が描かれています。

モルモン経は、イエス・キリストについてのもうひとつの証です。モルモン経の中には、新世界の予言者の証が載せられています。壮大な歴史を記した各章には、戦争の悲劇、神から与えられた警告、約束などが記されています。モルモン経は、土の中から呼ぶ人の声のように世の人々に語りかけています。世の人々はこの声に耳を傾ける必要があります。

書き記したり、述べたりした言葉も載せられています。また様々な状況の中でジョセフ・スミスが体験した出来事についても書かれています。そして、そのすべてがひとつとなって、末日聖徒イエス・キリスト教会の教義と典礼を定める非常に重要な標準を形作っているのです。

私はジョセフ・スミスの生涯を思うとき、驚異の念に打たれます。ニューヨーク州パルマイラの一農民の子供であった彼は、正規の学校教育を受けたことはほとんどなく、本を読む機会などはめったにありませんでした。しかし、彼は全能者のみ手にある器として、この偉大なみ業の律法、証となる言葉を語りました。教義と聖約は主がその民にみこころを知らせるためのひとつの経路なのです。

すべての人に理解し得る言葉

この書に扱われている事柄の多様さは、驚きに値するものです。教会統治の原則や手続きがあるかと思えば、物心両面に及ぶ約束を伴うすばらしい健康の律法も含まれています。永遠の神権の誓約についても、ほかの聖典には例のないすばらしい記述があります。パウロが簡単に述べた3種の光栄、すなわち日と月と星の光栄に伴うそれぞれの特権と祝福、限界やすばらしい機会についても書かれています。悔い改めについても、明瞭で力強い宣言がなされています。またバプテスマの正しい執行法も明らかにされています。何世紀にもわたって神学者たちを悩ませ続けてきた神会の本質についても、万人に理解できる言葉で説明がなされています。教会運営に必要な基金の集め方、またその運用などについて与えられた主の財政の律法もあります。時代を問わず神のすべての息子、娘に祝福をもたらす、死者のための業も明らかにされています。

教義と聖約を読むと、ジョセフ・スミスが神の永遠のみこころに関して完全の域に近い知識を得ていたことがわかります。聖書は貴くすばらしい書物です。ぜひ、その力強く美しい言葉を味わっていただきたいと思います。それと同じように、モルモン経をよく用いて、力を得、問題への解決策を見だし、靈感やチャレンジを受けてください。そして教義と聖約に書かれている、神が今の代の人々に与えられた啓示を通して、教えと理解を得、希望に満ちた約束、慰め、力を受けてください。

私は教義と聖約に書かれている言葉、またその威厳をこよなく愛しています。そのメッセージ、教え、予言された約束のわかりやすさと力強さには、ただ驚くばかりです。

私の好きな聖句

神への感謝の表現、また自分の証として、この偉大な啓示の書からいくつか好きな聖句をあげ、あわせて自分の感ずるところを簡単に述べてみたいと思います。どれも、私の心を強くとらえ、感動させ、へりくだることを教え、慰めを与えてくれたみ言葉です。皆さんも、神から与えられたこれらの宣言について深く考えてください。

「主、われ言いたることは、われ言いたるなり。われ言い逃れせず。天地は過ぎ行くとも、わが言は過ぎ行くことなくして成就すべし。わが声にて言わるるも、僕らの声にて言わるるもみな一つなり。見よ、みよ、主は神にして『みたま』は証す。また、この証は真実にして真理は永遠に変わることなし。」(教義と聖約1:38-39)

人々にあざけられ、敵のあなどり、冷笑家のさげすみを受けるとき、私の心の中に、全能者のこのすばらしいみ言葉が思い浮かんできます。主はみずから語られたことや行なわれたことに対して、言い逃れをなさるような方ではありません。主の約束、予言はすべて果たされ、成就されます。「真理は永遠に変わること」がないのです。

教会に敵する人々のよこしまな策略について、主は同様にこう宣言されました。

「われは、彼らがわが業を打ち破るを許さず。誠にわが智恵は悪魔の狡智より勝れるを彼らに示さん。」(教義と聖約10:43)

私はこれまで、このみ業を嘲笑したり、滅ぼそうとしたりする人々の邪悪な行ないを何度も目にしてきました。しかし、啓示を通して与えられた、これらの主の偉大なみ言葉は、次にあげる第3章の教えとあわせて、私に慰めと確信を与えてくれました。

「神の業、計画、目的が破れ、また水泡に帰するは共に有り得べからず。」(教義と聖約3:1)

私はこれまで様々な国で宣教師と会い、第4章から引用して話してきました。そのたびに2節の言葉が深い確信を伴って、心に迫ってくるのを感じました。

「この故に、汝ら神の役務に出で立たんとする者は、終りの日に臨みて神の前に咎なくして立たんため、すべからく心をつくし、勢力をつくし、思をつくし、体力をつくして神の役務をなせ。」(教義と聖約4:2)

いつか報いの日がやって来ます。主のみ名を告白し自分の行ないについて申し開きをする時が来ます。私たちはこの世の生涯を通して、みずからその日のための記録を書いているのです。

「神聖なるものを軽んずることなかれ」

次の聖句も私が好きなものです。

「神聖なるものを軽んずることなかれ」(教義と聖約6:12)

これとあわせて思い浮かぶのが、63章の次の言葉です。

「およそ天より来るものは聖きことを憶えよ。故に心してこれを語り、また『みたま』の導きのままにこれを語らざるべからず。」(64節)

私にとって主のみ名がみだりに唱えられるのを聞くのは、不快なことです。神聖な事柄を軽々しく不まじめな態度で口にするのを聞くのも同じです。

借金は破産や契約不履行といった結果を招くことが多々あります。私は負債の重圧に苦しみがく多くの人を見るたびに、マーテン・ハリスに与えられた次のみ言葉について考えます。

「汝の負債を支払いて束縛より免れよ。」(教義と聖約19:35)

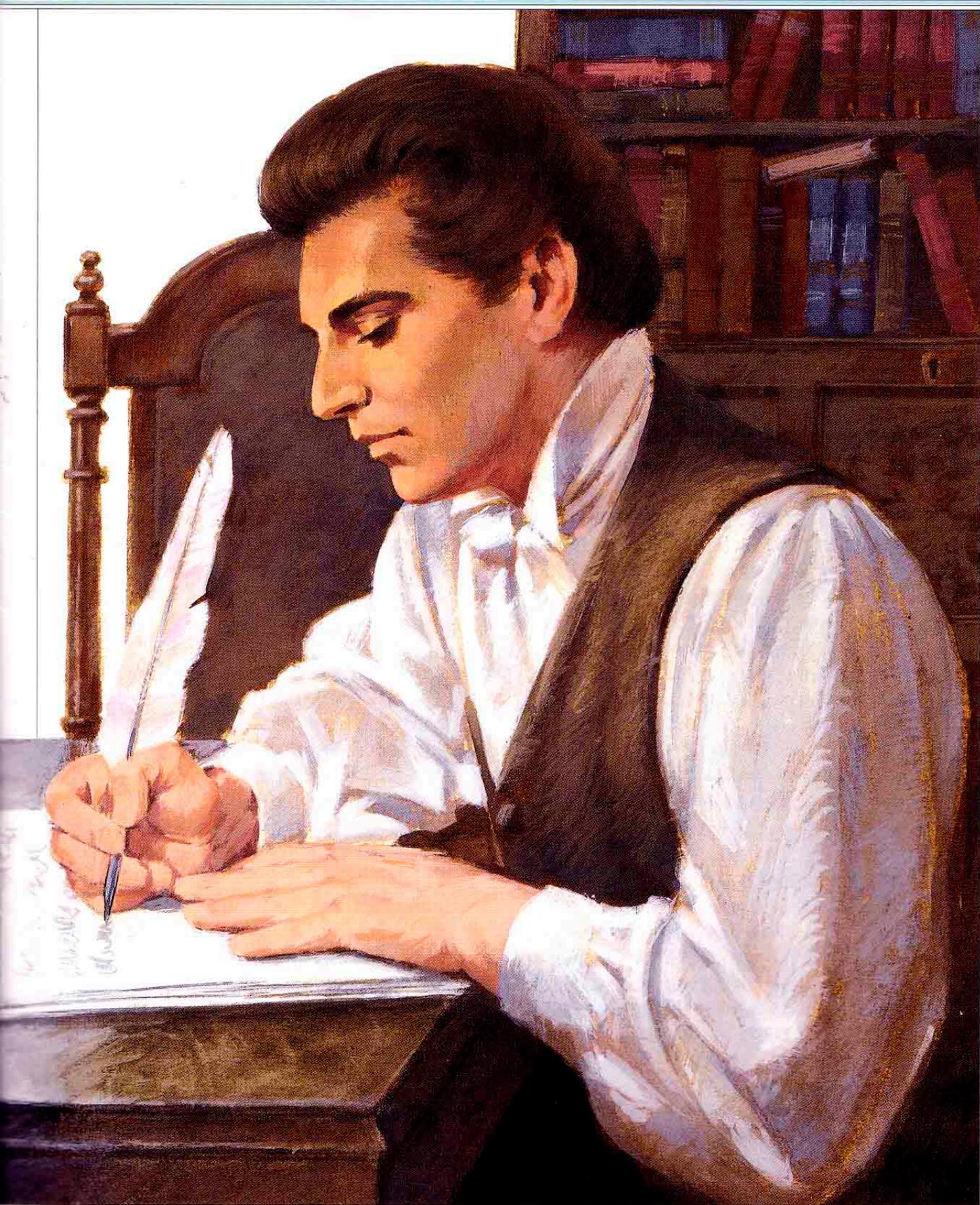
借金に苦しんでいる人なら、この束縛のつらさを少しは理解できるはずですが。

「もし汝らに備えあらば怖ることなからん。」(教義と聖約38:30)

この簡潔なみ言葉の中になされている約束は、実にすばらしいものであり、確かなものです。これは、勉強のことで思い悩んでいる若者、また妻子に対して責任を持つ家族の長、実社会で働いている人々、教師、多くの聴衆を前に話をする責任を受けている人、教会の役員など、あらゆる人々に当てはまるメッセージです。私たちはときとして、自分にはとてもできないと思うような責任を与えられることがあります。しかし、よく備えていれば、恐れる必要は

予言者ジョセフ・スミスが記したように、教義と聖約は驚嘆すべき聖典と言えます。この聖典によって、神会、回復された神権の権能、教会政体、栄光の3つの階級、そのほか永遠の救いに関する数多くの事柄を、一層詳しく知ることができます。





ないのです。主ご自身がそう約束しておられるのです。

「神によるものは光明なり。その光明を受けて神に従うこといよいよ久しき者は、その受くる光明いよいよ明らかなり。その光明いよいよ明らかとなりてついに完き昼となるべし。」(教義と聖約50:24)

私にとって、これは実にすばらしい教えです。この聖句は永遠の進歩という教えの本質を明らかにしています。私たちを完成へ導く成長の機会と約束が、わずかな言葉で示されています。この聖句は私たちに、神につける事柄を学ぶにつれ、理解が深まり、神から与えられる光によって、栄光を受けるようになるということを教えています。

「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。」(教義と聖約58:42)

私たちの多くは、実際は忘れ去ろうとしていないにもかかわらず、人の過ちに対して赦しを与えたという傾向があります。主は悔い改める人の罪を赦してくださいます。にもかかわらず、多くの人は過去の出来事を何度も何度も持ち出すことがあります。なぜそのようなことをするのでしょうか。この聖句には、私たちが学ぶべき、非常に大切な教訓が述べられています。忘れることなしに、真の赦しを与えたとは言えないのです。

栄えある宣言

いくつかの聖句をあげてきましたが、最後に76章に記録されているジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの栄えある宣言を見てみたいと思います。

「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。すなわち諸々の世界は彼の手により、彼の手を経て、また彼に因りて先に作られ、また現に作られ、これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証したもう。」(22-24節)

この簡潔な証は予言者とその同僚によって述べられたものです。ジョセフは135章に書かれているように、ここに宣言した真理の証に殉じて、自分自身の命を捧げました。彼は1844年6月27日にイリノイ州カーセージにおいて、兄の

ハイラムと共に銃で撃たれ、この世の生涯を終えました。その場に居合わせたジョン・テイラーは後に次のように書いています。

「この二人の罪無きの血は、イエス・キリストの教法のための使節にして、万国の民の中なる正しき人々の心に深く触るべし。」(7節)

ジョン・テイラーは予言者として、この靈感による言葉を語り、書き記しました。全世界的な教会の発展は、この予言をはじめ教義と聖約に記されている予言を成就するものです。

私たちに深いかわりのある数多くの事柄を載せたこの偉大な書物は、「神の方式と御旨」を今の代の人々に示しています。私はこの証を厳肅に、また感謝の思いを込めて書き記します。私たちは、この神聖な書物を読み、内容について深く考え、勧告と約束のみ言葉を味わうすばらしい機会を与えられているのです。□

ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに以下の点について話し合うとよいでしょう。

1. 聖書、モルモン経、教義と聖約、高価なる真珠はどれも私たちの信仰に欠かすことのできないものである。
2. 教義と聖約は聖典の中でも異彩を放つ書物であり、教会の憲章となっている。
3. 教義と聖約は、この神権時代における最初の偉大な予言者を通して与えられた啓示の書であり、現代の民に主のみこころを伝える道具である。
4. 教義と聖約に記録されている啓示を祈りの気持ちを持って読み、深く瞑想する人は靈感によって、希望にあふれた約束、慰め、力を主から受けることができる。

話し合いを進めるために

1. 教義と聖約について自分の気持ちを述べる。担当家族にも教義と聖約について感じていることを話してもらおう。
2. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておく必要はないだろうか。

「群れへ戻す」

目的：お休み会員が再び教会へ戻れるよう
援助することの必要性を再認識する。

どのワード部や支部にも、今教会に来ていない姉妹がいると思います。教会員でない夫に、日曜日と一緒に過ごしたいと言われて、教会に来ることのできない人もいるでしょう。思いやりのない言葉に心を傷つけられたことが原因の人もいます。また、病気や失意と闘い、苦しんでいる人もいます。伴侶に恵まれていない、子供がないという理由で、疎外感を持っている人もいます。教会の教えに疑問を感じたり、知恵の言葉に関して問題を持っていたりする人もいます。あまり長い間遠ざかっていたために、気まずい思いがあるという人もいます。

数年間、教会から足を遠ざけていたある姉妹がいました。彼女は、自分がなぜ教会へ行かなくなったのか、その理由も忘れていました。教会とのつながりは、ホームティーチャーと訪問教師の訪れだけでした。教会に戻るようと勧められても、決まって「むずかしすぎる」とか「手遅れ」という返事をするだけでした。

あるとき、彼女は自作の詩を訪問教師に見せました。訪問教師がそれをワード部^{しょうぶ}で出している新聞^{しんぶん}に載せたいという^{しょうだく}と、彼女は承諾しました。

その詩が新聞に載ると、以前彼女と親しくしていたある姉妹が、彼女のことを思い出して訪問しました。ふたりは詩について語り合い、旧交^{きゅうこう}を温めました。そして訪問を終えて帰るときに、友人はこう言いました。「あなたが教会へ戻るためなら、何でもするわよ。あなたがいないワード部は寂しいわ。」すると教会から遠のいていた姉妹が口にしたのは、「戻らと思うわ」という言葉でした。その返事を聞いた姉妹も驚きましたが、言った当の本人もなぜ自分がそんなことを言ったのかと驚いた様子でした。

しかし、その週も翌週も彼女は教会に顔を見せませんでした。それでも、電話での誘いや訪問が続けられ、ついに彼女が教会に来るようになったのです。温かく迎える教会員たちに接して、彼女の心の中に希望と勇気がわき、続けて教会に出席するようになりました。そして、生活が変わり、再び活発な教会員となったのです。

この姉妹に教会に戻ろうという望みを起こさせたのは、教会員たちの愛と理解でした。今教会に来ていない姉妹の中には、彼女のように孤独で寂しい生活をしている人がたくさんいます。エズラ・タフト・ベンソン大管長はそのような人々を教会へ連れ戻すことについて、私たちに次のよ

うに求めています。「私たちは、教会員また主に従う者として、愛の手を伸べ、思いを新たに、群れへ戻るようにと心を込めて招かなければなりません。」どうしたらそれができるのでしょうか。次の4つのステップを踏んで行なってください。

1. **考える。** フェローシップの手助けに関し、個人または家族として、どのお休み会員に働きかけることができるか、指導者の指示を求めてください。
2. **祈る。** どのお休み会員に働きかけるかを決めたら、主の導きを求めます。主は道を備えてくださるでしょう。愛を必要としている人に助けの手を差し伸べられるように力を求めてください。
3. **継続する。** 最初はけんもほろろにあしらわれるようなことがあるかもしれませんが、まったく望みがないと決めつけてはいけません。拒まれることについて、乗り越し苦勞をせず、決してあきらめないでください。
4. **心を配る。** 教会にいつも集っていても、心の中に悩みを抱えて苦しんでいる人がいます。心を込めたあいさつをするようにしてください。ひとりきりでいる人がいないか心を配ることや、自分から働きかけるのは大切なことです。そのような心配りによって、多くの人が教会に活発に集えるように助けることができます。ベンソン大管長の次の勧告に従うなら、教会から遠のいている人々を、再び群れの中に連れ戻すことができます。「私たちは、かの良き羊飼いがすべての人に示されたのと同じ愛を示さなければなりません。……悩み苦しんでいる人、神の教えに無関心な人、何かに心を奪われている人、私たちはそのような羊を見つけ、愛を示し、再び教会に活発に集うよう導かなければなりません。」□

訪問教師への提案

1. 愛ある働きかけによって、再び教会に活発に集えるようになったり、信仰を強められたりした人を知っていれば、そのような人々について話し合う。
2. ほかにの人々に関心を向けるにはどうしたらよいか、話し合う。また、どうしたらよいフェローシップができるかについて話し合う。

(「家庭の夕べアイデア集」 pp.120-26参照)



子供のいない家族の方々へ

「子供に恵まれない夫婦の方々のために、
個人的な経験を通して学んだ事柄や、
得た証を話したいと思います。」

中央若い女性会長

アーデス・G・カップ

夫と私の間には、現在でも子供がいません。この点についての私たちの祝福は、いまだに天に止められています。それでも、私たちがひとつの家族であることには変わりありません。これは、私たちが神殿の聖壇の前にひざまずいたまさにそのときに、神の権威によって定められたものです。子供はその家族の延長として授けられます。ひとりの男性とひとりの女性が結婚によって結ばれると、ふたりは直ちに新しいひとつの家族となり、一時的に子供がいなくても、家族であることに変わりありません。

私がこのような話をしようと思ったのは、子供がいなかったために悲嘆に暮れている多くの夫婦を知っているからです。私はそのような方々に、この特殊な試練について、私の個人的な経験から得た事柄と証を分かち合いたいと思います。これらの経験は非常に個人的であるために、これまで家庭以外で話すことはめったにありませんでした。

「生めよ、ふえよ」という戒め

カップ兄弟と私も、皆さんがいま当面しているような悲しみや苦痛を経験しました。今でもよく覚えています。私たち夫婦も、毎月のように期待と落胆の交錯する感情の浮き沈みを経験しました。その中には、断食証会も含まれています。証会では、信仰を持って願ひ求め、ついに子宝に恵まれたという証を何度も聞いて、励まされたものです。ところが、家に帰って皿をふたつだけテーブルに並べると、「生めよ、ふえよ」というあの結婚の誓約が思い出され、正しい者が受ける誉れある祝福を必死に願ひ求めた記憶がよみがえってくるのです。伴侶にさえもその思いを話すことはできません。まして、両親や兄弟、また友達にはなおさらでしょう。そしてヨブと同じようにこう叫ぶのです。「たといわたしが正しくても……わたしは恥に満ち、悩みを見ている……。」(ヨブ10:15)

中には来る年も来る年も、子供がいなかったことを悩み続け、ついには、子供がいなければ自分が創造された目的を果たすことができなとと考えて(教義と聖約88:19参照)、ヨブのように「私は自分の命をいとう」(ヨブ10:1)と言うほ

どまで思い詰める人々もいます。そして、創造の目的が果たせないのなら、この人生にどのような意味があるのかしら、と自問しています。

私にも忘れられない思い出があります。ある日、近所に越してきたばかりの子供が私の家に来て、うちの子供と一緒に遊んでいいかと尋ねました。私は、これまで年配の人にも若い人にも、数えきれないほどしてきたように、うちには子供がいないことを説明しました。すると、あどけない表情のその小さな男の子は首をかしげて、不思議そうに言います。それは、私があえて口にしなかった言葉でした。「お母さんじゃないんなら、じゃ、おばさんはなに？」

しかし若い夫が監督に召された日に、私たちに子供に恵まれないのはふさわしくなかったからではないことを確信しました。ある人々はこの点を理解していません。同じワード部の中で監督の職を望んでいたある善良な兄弟が、ひそかに夫のもとに来て、いきりたってこう言いました。「あんたに監督を務める資格なんかあるのかい。子供の教育なんか何もわからないくせに。うちの家族は、あんたから何の世話も受けないからね。」しばらくして、夫はその男性の家族の重大な危機を助け、それが契機となって、私たちはこの家族との永遠の愛のきずなを強めることができました。

皆さんにも同じような経験があるでしょう。今までにしなければ、将来そのような経験をされるでしょう。こうして、私たちは様々な痛手を負いながらもその中から成長し、ついに神への信仰を通して、もはや傷つくこともいらだつこともなくなるのです。ただ現在、傷つき心を悩ませている方々がいるならば、皆さんの気持ちは私にも理解できることを知っていただきたいと思います。

では、この満たされない気持ちに、どのように対処すればいいのでしょうか。まず最初に、この人生で私たちは苦悩から逃れられない、という現実を受け入れなければなりません。実際、私たちが現世に来た目的を成就できるのは、苦難の時期です。現世という試しの火の中で、私たちはみずからを高めるか、引き下げるかのどちらかなのです。

岐路に立って、決断を下すのも、そのような試しの一部です。私たちのように子供のいない家族にとって、こうし

た選択が信じ難いほどむずかしく思われる場合があります。主は、私たち夫婦に何を望んでおられるのでしょうか。医師の援助はどの程度まで受けたらいいのでしょうか。養子を迎えて育てるのはどうでしょうか。それとも、このまま子供のいない生活を続けたいのでしょうか。その場合は、何を生きがいにすればよいのでしょうか。どれをとっても、選択は容易ではありません。しかも、迷っている時期に、両親、友人、あらゆる分野の指導者、医師、そのほかの専門家から、互いに異なる様々な助言を受けて、かえって迷いを深めてしまうこともよくあります。私の知っている人々の中には、子供のできない原因を互いに相手のせいにして、離婚まで考えている夫婦も何組かいます。

私は自分の経験から、唯一変わらぬ平安がどこから来るのかを学びました。この平安は、人生で迎える様々な機会について主のみこころを知るときに得ることができます。そのためには、自分の前にある選択肢についてよく考え、明確な決定を下し、それを主のみ前に持っていかなければなりません。そうすれば、ダリン・H・オークス長老がブリガム・ヤング大学の学長時代に語ったように、「人生を変える重大な選択に迫られたとき、……ふだんみたまを受けられるような生活を送り、聖霊の導きを求めているなら、目標を達成するために必要な導きを確信することができます。永遠の福利を左右する決断に迫られるとき、私たちは主の助けを受けられずに、ひとり放っておかれることはありません。」（「1981-82年度ブリガム・ヤング大学礼拝集会における説教」1981年9月29日、p.26）私はこれを信じています。ただ、私たちは主が設けられた期限を知りません。そこで信仰が必要となってくるのです。

私にはふたりの妹がいます。ふたりとも子供がいます。下の妹のシャーリーには、11人の子供がいます。次女のシャロンには、6年間待ちに待って生まれた女の赤ちゃんがいます。さらに10年後、子供を持ちたいという熱心な祈りによって、養子縁組というすばらしい祝福を受けました。小さな男の子が彼女の家族の一員となり、神殿で永遠の結び固めを受けたのです。この男の子にしても、そのほかの子供たちにしても、私たち親族にとってすばらしい祝福で

す。

長年の間、私たち三姉妹はそれぞれの夫と共に、お互いのために一緒になって祈ってきました。そうしてわかったことは、主は私たち一人一人に異なった方法で答えを与えられ、また、必ずしも願うとおりに答えてくださるのでもなければ、私たちの定めた期限に合わせて答えてくださるのでもない、ということでした。それでも私たちは全員が、主の承認を受け、愛されているという温かい確信を得ています。

正しい望みを持っているのに答えがまだ与えられないと感じる時期が、皆さんにもあるでしょう。そのようなときに平安を得る道は、ひとつしかありません。「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」（ルカ22：42）と言うことです。主にご自分の決定を私たちに説明される義務はありません。もしそうされたら、私たちはどのようにして信仰を身につけるのでしょうか。どんなにむずかしい選択であっても、みずから選び、次いで、その結果に対する責任をみずから引き受けなければならないことを、私は学びました。自由意志を行使するという重大な責任を直視し、信仰によって永遠の行く末を決める大切な決断を下してこそ、私たちは神に近づくことができるのです。

いつの日か、おそらく信仰の試しを何年か経た後、自分の決断は正しかったという証を得るでしょう。（イテル12：6参照）しかしそのときまで、聖霊の導きに従って生活しようと願う人々は、それに従うために、大きな信仰と勇気を得なければなりません。

奉仕、犠牲、そして勉強

では、この世で子供が持てないとわかったとき、満ち足りた人生を送るために、夫婦はどのような決断ができるのでしょうか。ある夜、夫と私はこの疑問の答えを探し求めていました。そのとき、デビッド・O・マッケイ大管長の次の言葉に出会ったのです。「人生で最も気高い目的とは、他人の生活をより良くし、幸せにしようと努めることにある。」（『大いなる喜びと感謝』「聖徒の道」1970年5月号、



p.118)

それは、暗やみを照らすかがり火のように思えました。この言葉は私たち夫婦のモットーとなり、ふたりを導く光となりました。その夜、おそらく主からの靈感によって、我が家の族長は私にこう言いました。「君が子供を愛するのに、子供を持つ必要はないんだよ。愛するということと、自分のものにするということは違うし、自分のものだからといって、必ずしも愛しているとは言えないものさ。世の中には、愛や導き、教え、励まし、靈感を必要としている人々が大勢いるじゃないか。」

主人と私は、両親には常に犠牲と奉仕の精神を高める場が与えられていることを承知しています。私たちの友人が子供を通して学んでいる大切な事柄を学ぶには、私たちも奉仕し犠牲を払う場に、みずからを置かなければならないことに気づきました。そこで私たち夫婦は、だれにどんなことを頼まれても引き受けるようにし始めたのです。

程なくして、私たち夫婦はたくさん犠牲と奉仕の機会を得るようになりました。長かった1週間の終わりに、私たちがふたりだけの時間を取ろうとしていると、ちょうどそこに電話のベルが鳴り出すこともよくありました。私たちはふたりだけの時間を返上し、与えられる機会に感謝と喜びの心をもってこたえていました。それは、たとえわずかでもニール・A・マックスウェル長老の語った次のような特質を、身につけたいと願っていたからでした。「姉妹たちは（兄弟たちも——原筆者注）自分に差し迫った問題があるときでも、人々を慰め励まします。それは十字架上のイエスが示された寛大さに似ています。苦悩の中で示す思いやりはまさに神性の一部です。……ある祝福が（少なくとも——原筆者注）今は与えられていないからといって、ほかの祝福を拒んだりはしません。」（『神に従う女性』『聖徒の道』1978年10月号, pp.12-13）

私たちのように子供のいない夫婦は、ひたすらみずからを哀れむか、自分と周囲の人々のために永遠の生命への道を開く「産みの苦しみ」を経験するか、いずれかを取ることができます。私は、皆さんも自分を哀れむ代わりに、ほかの人々に手を差し伸べられることを証します。そうする

なら、いつの日か、友人の赤ちゃんを抱いてさえ喜べるようになるでしょう。また、初々しい花嫁や、召されたばかりの宣教師の母親と一緒に、あるいは友人がおばあちゃんになる日をも、共に喜べるようになるでしょう。どうすればそれができるでしょうか。ひとつの例を紹介したいと思います。

ある年のことです。クリスマスの季節が近づくにつれ、私の心には悲しみが募ってきました。夫と私は、おいやめと一緒ににぎやかな楽しいひと時を過ごすことはできたのですが、やはりそれは一年のうちのこの特別な季節を我が子と共に過ごす楽しさとは違っていました。何もかもが公平でないように私には思えました。自分がやみに閉ざされ、憂うつな気分にとらわれているような気がしました。そこで、私は長年学んできたとおりのことをしました。ひざまずいて、主の教えを祈り求めたのです。

私の祈りが答えられたのは、教義と聖約88章67-68節を開いたときでした。「もし汝ら誠心誠意わが光栄を顕さんとすれば（そして、神の栄光とは『人に不死不滅と永遠の生命とをもたらず』[モーセ1:39]ことなのです——原筆者注）、汝らの全身光明に充たされて汝らの中に暗黒なく、その光明に充ちたる体はすべての事を理解せん。故に、汝らの心誠心誠意神に向わんがために、汝ら自ら聖くせよ。さらば、汝ら神を見るの時あらん。そは、神その面を汝らに現わすべければなり。而してそは神の時、神の欲するまま、神の旨によりて起るべし。」

皆さんにとってこの約束の成就する日がいつになるのか、私にはわかりません。私たち夫婦にとって、それは長い年月を要しました。しかしいつの日か、永遠の世界が見えるようになり、痛みが消えて平安が訪れ、絶望が去って希望がわきあがってくるでしょう。何年も前に私自身が、そのような理解を得たいと心から望んでいました。しかし、もし即座にこの知識を得ていたなら、私は成長の機会を失っていたでしょう。信仰の試しを経た後で、みたまの証による慰め（イテル12章参照）を受けて、人は成長するからです。□

ぼくはむかし

淡々と ♩ = 48-58

F B^b F B^b F

1. ぼくはむかし てんにいまし た
 2. みんながまた てんにいこま るよう
 3. イエスえらば れメシヤ と なり

B^b F B^b F

あなちやあて いるす るひと たち と
 いのちすあて 死すあ いあ くほ ろほ す
 そのみ名で

Gm Cm Gm Cm Gm B^bm

てんのちち はすべ てのひ とを
 サタンはそ のえいこ うも とめ
 いつかぼく も てん のち ちま つ

F Dm Gm C⁷ B^b B^bm F

すくうけい か くを しめ され たに
 イエスにか え るこ いと が ちき る よ
 いえにか え るこ とが でき る よ

作詞・作曲：ジャーニーン・ジェイコブス・ブラディー，b.1934
 Copyright © 1987 by Janeen Jacobs Brady.

「子供って何でこんなに病気ばかりしているんでしょう？」

「いつもほかから病気をもらってくるので、治療費が大変なんです。」

「病気でも学校の授業は必ず出なくてはならないのよ。」

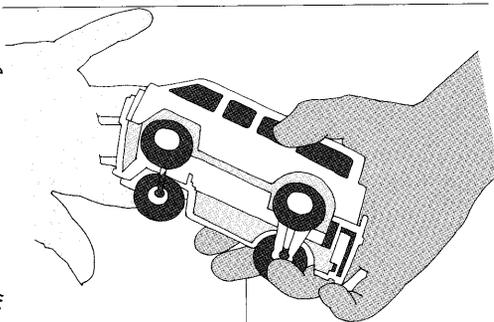
「監督は少し熱があるぐらいで教会を休んでは大めです。」

こうした言葉を聞くと、病気がどのように感染していくかがよくわかります。教会は人を助け、召しを果たす勤勉で献身的な人々、子供には休まず学校や教会に行ってしまうと思っている人々でいっぱいです。このような人は、たとえ病気でも休ませませんし、子供も休ませません。

病気の場合、その人が気分が悪いだけならよいのですが、さらに大きな問題に発展することがあります。なぜでしょう。それは、病気の人がまき散らしている細菌によってほかの人が病気になることが往々にしてあるからです。

感染する病気にかかったときに教会を休んでも、義務を怠ったことにはなりません。むしろそれは思いやりです。だれかが病気のおときは、副会長や副監督、そのほかの人が喜んで代わりに責任を果たしてくれます。

では、いつ休んだらいいのでしょうか。それは感染する病気にかかったことがわかったときです。感染の多くは細菌やウイルスによって起こります。病名で言えば、おたふく風邪、水ぼうそう、はしか、流行性結膜炎、インフルエンザなどです。症状または徴候としては、熱、せき、のどの痛み、鼻水、下痢、吐き気などがあげられます。こうした症状が出たら感染症と疑ってみましょう。かかりつ



けの医師や専門医に相談すると、感染症かどうかわかります。

特に子供の場合、病気になったら保育園や幼稚園、学校を休ませなければなりません。一緒に遊んでいるだけで病気がたちまち広がってしまうからです。親は指導者やほかの子供たちのことを考え、子供が病気の

ときには教会や学校を休ませて、何か別の方法で世話をするようにしなければなりません。

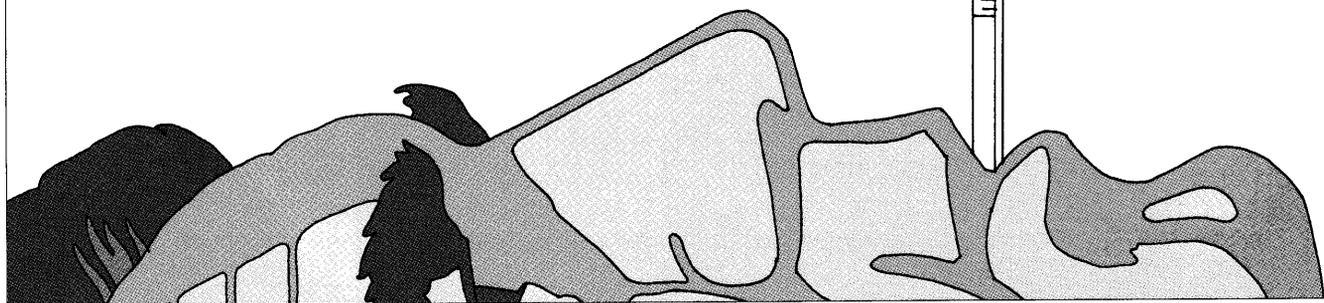
また家でも、病気にかかった子供はほかの子と接触しないようにした方が賢明です。病気にかかった子供のふとんやタオルをほかの子が使ったりしないようにし、食器も熱湯で殺菌消毒します。もちろん細菌は空気を伝わって広がりますが、こうしたことを心がけていれば、家族への感染はかなり抑えることができます。

では、病気のお人は何日ぐらい人と会わないようにしていたらよいのでしょうか。もちろんこれは病気によって異なりますが、最低、症状や徴候がなくなるまでは外に出ない方がよいと思います。具体的には専門医に相談してください。

もしすべての教会員が病気の感染の早さを自覚し、病気のときの対処の仕方を変えるよう努力すれば、教会での病気の件数は減らすことができます。また学校や仕事を休む日数も減ることでしょう。それに治療費も少なくなりますし、苦しみもなくなります。感染症にかかった人が教会に行かず家にいるだけでこれができるのです。□
*グレン・C・グリフィン：ミネソタ州ミネアポリスに住む開業医。

どのようなときに 教会を休むべきか

グレン・C・グリフィン



失われた 真理の回復

その1

モルモン経がなければ得られない

救い主についての知識

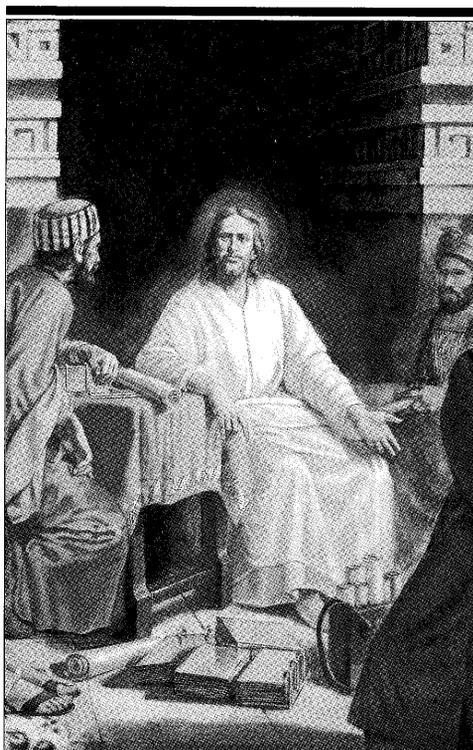
ギルバート・W・シャーフス

「モルモン経をありがとうございます。私はこの書物が神からの靈感で書かれたとも、キリストの福音に導いてくれるものだとも信じません。ただ、キリスト教以外の宗教の研究の一助となったことだけは申しあげておきます。」

これは、私と妻が合衆国中西部に住むひとりの女性から受け取った手紙の一節です。私たちの写真と証をつけたモルモン経をだれかがその女性に渡したのでしょうか。私はこの手紙を受け取った後で、その方に電話をしました。そして話はずんだところを見はからって、モルモン経がいったいどういうものかを手紙で説明したいのだがと言いますと、彼女は同意しました。そこで私はこの記事にあげたイエス・キリストについてのたくさんの概念も含めて、彼女に手紙を書いたのです。

事実、私はこれまでずっとキリストについての概念を集めた自分なりのリストを作ってきました。宣教師のときは、キリストに関してモルモン経が与えてくれた新しい知識として理解していたのは、6項目ほどでした。以来30年間、モルモン経を読んだり人に教えたりするたびにリストは増えていきました。この古代アメリカから生まれた聖典を読み返すたびに、これからも増えていくことでしょう。

ニーファイは末日の有様を示現で見ましたが、そこで「それであるから、^{なんじ}汝にはあの書物があの憎むべき大教会の手を経て出てきてからは、神の子羊の書物から誰にも^{わか}解る貴



い多くの記事が抜きとられていることがわかる」(Iニーファイ13:28)と書いています。私は、モルモン経はイエス・キリストを証するのみならず、イエスに関する失われた平易な真理を回復するものであることを確信しています。モルモン経は私たちが聖書で学ぶキリストについての教義を確認するだけでなく、補足しているのです。

1. 贖い主の贖罪はバプテスマを受けずに死んだ子供も含めて、律法なくして死んだ者にも及ぶ。

多くのキリスト教徒は、非キリスト教徒に贖罪の効果が及ばないと考えるのはもちろんのこと、バプテスマを受けない子供は滅びると信じています。しかしモルモン経の予言者ヤコブは、キリストの慈悲により律法のないところに罰はないと述べています。(IIニーファイ9:25参照) またベンジャミン王は天使の説明を思い起こしてこう言いました。「また見よ、キリストの血は、アダム^{とが}の咎のために墮落した者たちの中で、自分たちに関する神のみこころを知らないまま死んだ一切の者と知らずに罪を犯した一切の者との罪を^{あがな}贖う。しかし、自分が神に背いていることを自分から認る者は^{みどめ}禍である。まことに禍である。このような者は悔い改めて主イエス・キリストを信ずるのでなければ、どのようにしても救いを受けることができない。」(モーサヤ3:11-12)

私たちはモルモンからモロナイへの書簡を通して、次の

「^{おきなご}幼児には悔改めもバプテスマも一切不要である。……幼児は……
キリストにより救われている。」(モロナイ8：11-12)

ことを学ぶことができます。「しかしその^{おきなご}幼児には悔改めもバプテスマも一切不要である。バプテスマは人がすでに悔い改めたことを証明した確めるため、また罪の赦しを得るための神の命令を守るために施すものである。幼児は世の始めからすでにキリストにより救われている。もしもそうでなければ神は不公平な神であり、変ることも人をかたよって見ることもある神である。なぜならば、バプテスマを受けなくて死んだ幼児の数はいかにも多いではないか。」(モロナイ8：11-12)

2. キリストの十字架上の死は、信条や行ないにかかわらず なく万人に復活をもたらした。

キリスト教の教派の多くは、キリストの贖罪には制限があると信じています。復活はキリストへの信仰がなければできないと教えています。またバプテスマを受けて聖餐を取る必要があると信じている人々もいます。ヤコブはこのように明確に述べています。「神がこのように苦痛を受けたもうのは、一切の人類をあまねく復活させて、あの大裁判の日にすべての人を神の御前に立たせんがためである。」(IIニーフアイ9：22) またモロナイはこう書いています。「イエス・キリストの為したもうた人類の贖いによって……万人が贖い救われ……復活は人を永遠の眠りから救う。」(モルモン9：13) このことはキリスト教の正義と憐れみの神学を理解するうえで大きな力となっています。



3. 主の贖罪の力によって、私たちは単に霊的な意味で復活するだけでなく、肉体も復活する。

キリストの贖罪による人類の復活には肉体の復活は含まれないと信じています。この点についての聖書の翻訳が異なっているため、混乱を招いているのです。たとえば、欽定訳のヨブ19章26節にはこうあります。「わたしの皮のうじがこの体を滅ぼしたのち、わたしは肉にあって神を見るであろう。」しかし他の聖書(例：日本聖書協会訳)では「わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉を離れ

て神を見るであろう。」とあるのです。

モルモン経にこうした混乱はありません。父リーハイの死後間もなく、ヤコブはこう教えました。「私はあなたたちの多くが未来の事を知ろうと思って、大いに探し求めたことを知っている。それ故にあなたたちはわれわれの肉体は必ずやせ衰えて死ぬものであるけれども、未来に於てわれわれは復活体となって神に会うと言うことを知っている。私は明らかに認めている。」(IIニーフアイ9：4) またそれからずっと後に、アミュレクはこう教えています。「世には肉体の死と名づける死があるが、キリストの死によって肉体の死の縄目が解かれあらゆる人がこの肉体の死から復活することができる。ここに於て霊と体とは再び合して完全な形となり、手足も骨の関節も私たちが今持っている本来の形に戻り、私たちが今持っているような知識を保ち、明らかに自分が持っている一切の罪を思いめぐらしてそのまま神の御前に引き出されるのである。(アルマ11：42-43)

4. キリストの苦痛はあらゆる毛穴から血が出るほど大きなものだった。

モルモン経は、ゲツセマネの園で受けたキリストの苦痛に関して、論議的となっている次の新約聖書の一節を明確に説明しています。「イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。」(ルカ22：44)

多くのキリスト教徒はこの節を^{ひゆ}比喩であるとして、汗が血のしたたりのように落ちたと解釈しています。つまり、毛穴から血は出ないと考えているのです。

しかしベンジャミン王は天使の言葉を通してキリストの苦痛をこう説明しています。「そしてこのお方は誘惑を受け、肉体上の苦痛と飢えと渴きと疲労とを経験したもうが、これは死ななければ人間に堪え難いほどひどいものである。なぜならば、見よ、このお方は全身の毛孔から血を流したもうほどに、その民の罪悪と憎むべき行いのために苦痛を感じたもうからである。」(モーサヤ3：7)



「もしもアダムが罪を犯さなかったならば、彼は……そのままエデンの園にいたであろう。……そして……万物は……そのまま永久に続く……たであろう。」(IIニーファイ2:22)

5. キリストの贖罪は正義の要求を満たすものだった。

この概念はよく知られたものですが、はっきりとそれを説明しているのはモルモン経だけです。(モーサヤ15:9; アルマ42:15参照)アルマはこう尋ねています。「お前は憐み(あわれ)が正義の働きを奪うことができると思うか。私は自分で答えよう。いや、少しも奪うことができない。もしそうでないならば神は神たる資格がなくなるのである。(アルマ42:25)つまり、主の教えに従う者が慈悲を得ることができるように、イエスが私たちの罪の代価を支払ってくださった。こうして正義の要求が満たされたということです。

6. キリストの贖罪は人の墮落を含む永遠の計画の一部をなす。

多くのキリスト教徒は墮落を悲劇と考え、アダムとイヴを邪悪な罪人と見なしています。したがって、贖罪は彼らの罪を贖うためだけのものにとらえられています。この解釈は、聖書の記述の不完全さからいえば仕方のないものと言えましょう。

しかし幸いにも、モルモン経は墮落と贖罪の関係を明確にしています。リーハイはこう説明しました。「さてごらん、もしもアダムが罪を犯さなかったならば、彼は墮落をせずにそのままエデンの園にいたであろう。そして創造された万物は造られた後の状態そのままに続いてあったに違いなく、また必ずそのまま永久に続いて終りがなかったであろう。また、アダムとイヴは子供をもうけることもなかったであろうし、それから不幸を知らないから喜びもなく、罪を知らないから善もなせず、そのまま罪が無い状態に留ったであろう。」(IIニーファイ2:22-23) また悲しみがなければ喜びもなく、悪がなければ正義もないと言っています。そうなれば永遠の生命に至る道は閉ざされてしまうことでしょう。(同11-27節参照)

救い主は墮落が起こるはるか以前から、その贖いの使命のために備えをしておられました。(イテル3:14参照)墮落は反対のものと選択の機会をもたらしました。救い主の贖罪により私たちは永遠の生命へ至る道を選択できるよ

うになったのです。(IIニーファイ2:27参照)

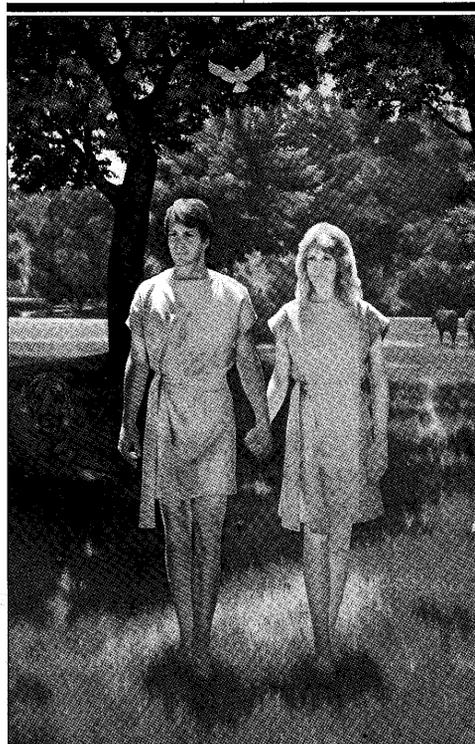
聖書では、アダムとイヴの墮落とキリストの贖罪を主の計画とは見ていません。モルモン経はそれとは対照的に、「私たちの神の計画」(IIニーファイ9:13)、「永遠の大きな計画」(IIニーファイ11:5)、「贖いの計画」(アルマ12:25)、「幸福を与える偉大な計画」(アルマ42:8)といった説明をよく用いています。「救いの計画」という表現はジェロム書で初めて出てきます。(ジェロム1:2)

7. 救い主の贖罪がなければ、地上に住む者はすべてサタンの支配下に置かれる。

サタンが人間に対して及ぼす力がいかなるものかは聖書には明確に示されていません。したがって、贖罪の目的のひとつが十分に説明されていません。しかしヤコブはこう教えました。「おお大いなる神の智恵よ。その深い憐みと御恵みよ。ごらん、もし肉体がもうよみがえらないならば、私たちの霊は必ずあの天使、すなわち永遠の神の御前から墮ちて悪魔となった天使に服従してもうよみがえることは決してない。」(IIニーファイ9:8)

悪魔が人類に力を及ぼす理由に関するアビダナイの説明を、モルモンはこのように記録しています。「かれらは肉欲におぼれその心がぎわめて悪く、悪魔がかれらを司どるから主が贖いたまわらない。この悪魔は私たちの最初の両親を誘惑した昔の蛇であって、それが誘惑したために私たちの最初の両親は墮落し、その墮落したためにすべての人類は肉のことを思い肉欲(おぼ)りその心がぎわめて悪く善悪を区別する力があって甘んじて悪魔に従うようになった。」(モーサヤ16:3)そして次の節には贖いによって悪魔の支配から逃れられることが示されています。(モーサヤ16:4-12参照)(9月号に続く)

*ギルバート・W・シャーフス兄弟はソルトレークシティにあるユタ大学インスティテュートの講師である。



最も興味ある書物

ロバート・K・トーマス

私たちはときどき本を読んでいて、とても興味を感じることがあります。時間を忘れて読みふけることさえあります。ところが聖典となると、義務的に読まなければならないもの、世俗的な書物を持つ楽しさは期待できないものと考えてしまいます。読書計画を立てるときでも、夢中になってあらかじめ決めた量以上を読み進めてしまうようなことは、ほとんど予想しません。事実、その日の読



書予定を考えて、それが長い箇所であったりすると、思わずため息をついてしまいます。

私たちは、人類に与えられた最も興味あるいくつかの書物に対して、新たな見方をする必要があります。聖典もそのような書物のひとつと言えます。私たちはこうした書物を詳細に調べ、分析し、祈りの気持ちをもって熟考する必要があります。深みのある読み物は、確かに手軽な読書には向いていません。しかし、その中から私たちは、大きな報いと励ましを得ることができるでしょう。人生の意味を求めて苦闘する人々に出会えるからです。それはほかならぬ私たち自身の姿と似ています。そのような書物の中に、多くの友を見いだすこともできます。はるか昔にこの世を

去った人々や、遠い国々に住む人々が私たちの心に語りかけ、心を鼓舞してくれます。彼らの語りかける言葉を完全に聞き分ける能力を伸ばすにつれ、私たちも成長し、彼らの期待にこたえられるようになります。

自分と同じ目標を持った人々を深く知ることになったり、目標を達成するために予期せぬ機会を十分に生かせなかった人々と悩みを分かち合ったりするのは、中でもきわめて興味をかき立てられる事柄です。

たとえば、オムナイ書に登場するケミシについて考えてみてください。私は、ニューファイの小版に刻まれた悲しいほどに短いケミシの記録を読むと、備えの足りなかったために私が逃してしまった数多くの機会のことを考えずにはいられません。この版は通常、親子の間で伝えられていたため、兄弟同士で書き継ぐことはありませんでした。したがって、ケミシは自分に版を刻む機会があるとは予想していなかったでしょう。それでも、ケミシは自分の兄弟が版を刻んでいる様子や、自分に書き継ぐ番が回ってきたこと、主の命令によってそうすることだけは、記録する用意ができていたようです。それだけ書いて、ケミシは「これで私の記録は終りである」(オムナイ1:9)と記しました。私にはまるで、ケミシが私を奮い立たせ、自分には準備ができていなかったこと、自分がこの版を書き継ぐ本人になろうとは考えてもいなかったことを説明しようとするかのように感じられます。ですから、私の友であるケミシのこの例を肝に銘じて、人から依頼を受けたときにはそれにこたえられるように、いつでも準備を整えておこうと、私は決心しています。

イノスのような人物が示した、活力あふれる生き方についても知ることができます。イノスの記録には、彼の行動力を物語る言葉が随所に見られます。さらにイノスは、全聖典を通じて、自分が将来どのような気持ちで主のみ前に立つことになるかを書き記した数少ない予言者のひとりです。彼はこう記しています。「私は^{あがな}主の^{みかお}御顔を仰いで喜び……。」(イノス1:27)このような言葉から、活力に満ちた人物が想像されます。

おそらく、本当に聖典を読むには、ヨハネ1章14節にある次の聖句の深い意味を、十分に味わう必要があるでしょう。「そして^{ことば}言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。」

神のみ言葉を生活に取り入れるうえで必要な能力を訓練し、完成に近づいていくなれば、言葉は生きたものとなるでし

よう。そうするとき、予言者は身近な存在となり、私たちは救い主を最良の友として信頼できるようになるのです。□

「若い頃、読書に関するふたつの言葉に私は強く影響されました。ひとつはこのようなものです。『友人を選ぶときと同じような気持ちで、本の選択にも注意なさい。習慣や人格の形成は、友人だけでなく読書にも大きく左右されるからである。』もうひとつは、『生きている人間を除けば、良書ほど魅力あふれるものはない』というものです。私は若い人々に、読書の習慣を身につけるよう心から勧めたいと思います。しかし、十分に意義ある読書体験を得るには、友人の選択と同じように慎重に本を選ばなければなりません。そのためには、価値のない書物に時間を費やせば、優れた書物に接する機会を失ってしまうことを心に留めておくとよいでしょう。」

エズラ・タフト・ベンソン大管長



アンナ・ナダステイ

家族の歴史を守る

神殿のこととなると、アンナ・ナダステイはとてもし生懸命です。その理由は、彼女のこれまでの人生を知ればすぐわかります。

ナダステイ姉妹はハンガリーに生まれ、ギリシャ正教の中で育ちました。父親は若いころにアメリカで働いたことのある人で、そのはるかかなたの「約束の地」についていろいろ話してくれました。

ブレイン・E・アンダーソン



第二次世界大戦で自国が侵略されたとき、ナグスディ姉妹はまだあどけない少女でした。その危機の中で、彼女は自分がユダヤ人でないことを証明するために、どこに行くにも家族の系図をトウモロコシの葉を編んで作ったバッグに入れて持ち歩いていたそうです。

戦争が終わって、ナグスディ姉妹は結婚しました。そして夫と一緒にハンガリーを出ることにしたのですが、出国の許可が下りませんでした。出国する唯一の方法は、有刺鉄線が張りめぐらされた地雷原を横切ることでした。そこには警備塔があって、兵士が常に目を光らせています。ふたりはいろいろと考えた末に、ある夜、脱出を決行することにしました。地雷原をはって進むのは、苦痛そのものでした。一歩間違えば地雷に吹き飛ばされます。いつ有刺鉄線に足を取られるか、またいつ兵士に見つかり銃殺されるかと、身の縮む思いでした。ナグスディ姉妹はこう述懐します。「主が導いてくださったんですね。無事オーストリアに脱出できたのです。所持品と言えば、そのとき身につけていた服と、そして私の系図だけでした。地雷原をはって進むのに系図はじゃまになることはわかっていました。でも、どうしても持っていかなければと思ったのです。」

アメリカで身元保証人を見つけられなかったふたりは、オーストリアに移り住みました。でも、父親のあのアメリカの話はナグスディ姉妹の心から離れることは決してありませんでした。

ある晩、ナグスディ姉妹はいつもとは違った夢を見ました。夢の中に出てきたのは、たくさんの塔のある建物で、美しい緑に囲まれていました。その建物に出入りしている人々はとても楽しそうでした。目が覚めても、その夢の中の情景は彼女の脳裏に鮮明に刻まれていました。でも、その建物が何の建物でどこにあるかは、皆目見当がつきませんでした。ナグスディ姉妹は、ときどきその夢のことを思い出してはどういう意味なのだろうかと考えていました。

その後、1954年にナグスディ姉妹は離婚しました。

それから歳月がたち、ナグスディ姉妹は政府の事務官と

して順調な生活を送っていました。しかし、何か大切なものが欠けているように思いました。そして、その思いは募るばかりでした。そこで彼女は神に祈ることを心に決めました。いたたまれないほどの孤独を感じた彼女は、ひとりになれる場所を探して主に願いを求めたのです。それまでの苦悩に満ちた半生を主に語り、主にこう願いました。「何か別の道があるのでしたら私に示してください。」

末日聖徒のふたりの宣教師が彼女のアパートを訪れたのは、ちょうどそのときでした。宣教師が自己紹介をし、訪問の目的を告げると、ナグスディ姉妹はこう考えました。「私が主と話していたときには、この人たちはもう私のところまで来ていた。きっと私の疑問に答えてくれるに違いない。」

ナグスディ姉妹は福音のメッセージを快く受け入れました。でも、ことのほか感動したのは、宣教師が見せてくれたソルトレーク神殿の写真でした。夢の中に出てきたあの美しい建物そのものだったからです。彼女はそのときのことをこう語ります。「神殿の写真を見せられたとき、もしいすに座っていなければ床に倒れていたと思います。」宣教師はナグスディ姉妹が強い興味を示したので、生者と死者のための神殿の業の教義を説明しました。

「そのとき、なぜハンガリーから系図を持ってきたのか初めてわかりました。」宣教師の話聞きながら、彼女はこのとき、自分が教会員となっていくの日か必ずソルトレークシティーに行き、自分と家族のために神殿の業を行なうだろうと思いました。

ナグスディ姉妹はバプテスマを受けました。そしてはるばるオーストリアからソルトレークシティーまで行き、自分自身と家族のために神殿の儀式を受けました。

1983年、祖国ハンガリーを訪問した後退職したナグスディ姉妹は、ソルトレークシティーに移りました。こうしてずっと昔に夢で見たその主の宮居で、主に仕えるという彼女の最大の望みを実現させたのです。□

「そのとき、なぜハンガリーから系図を持ってきたのか初めてわかりました。」

「1時間だけにしよう」

ロバート・K・レイ

「福音に熱を上げるのは改宗したばかりの人か、でなければ帰還して間もない宣教師だけさ。」私はずっとそう思っていました。福音が真実であることはわかっている、生活の中で生かされていなかったのです。そして、福音を実践するという事は、2マイル行く精神で奉仕すること、すなわち自分を捨てて人のために尽くすことであるとわかるまで、長い年月がかかりました。

私は5年間教会に行っていないでしたが、教会に戻ることを決心してからは、福音を実践することに全力で取り組みました。

しかし、時間がたつにつれて、そんな気持ちもしぼんでいきました。知っている教会員の中にはクリスチャンとして模範的な生活を送っているとは言えない人もいましたし、怠惰な人もいました。「清いキリストのような生活なんて絵空事だ。」私はそう思うようになりました。

大学に進んでからも、一応教会には行っていました、心は勉強のことでいっぱいでした。こうしてだんだんと単に慣例的に教会へ行くようになり、自分の最も大きな目標を達成するために、福音の教えに従うこともなくなりました。ところがそんなとき、ひとつの考えが私の心の中をかすめたのです。「私は正しいと知っていることを実行していない。」

私は安息日を聖く過ごすためにもっと努力しました。また、召しを一生懸命果たし、大会説教を読み、ワード部聖歌隊の練習にも参加しました。またホームティーチャーとして、ただ訪問するだけでなく、担当家族のためにできることは何でもしました。でも、それだけ努力しても、霊的なものはまったく感じる事ができなかったのです。そして、それは自分には一生無理なことなのではないだろうかと思いました。そんなとき、私はひとつ今までと違ったことをしました。

神権会で、ある夫婦が引っ越しをするので手伝いがほし

いとん発表があったのです。それまではそうした発表は無視していました。あまりよく知らない人たちのことだし、どうせ親しい友達や親戚の人たちが助けるからいいだろうと考えたのです。学校の勉強も忙しく、時間がなかったからです。でも今回は手伝うことにしました。

約束の日、私はその家に向かって自転車を走らせました。気持ちは落ち着きませんでした。それは、自分をいい子に見せたいのだと思われなくなかったからです。家に入るなり熱意もさめてしまうところでした。トラックに運び入れる段ボール箱がうず高く積み上げられていたからです。

「1時間だけにしよう。」私は思いました。「それで十分さ。」

見ず知らずの人の仕事を手伝うことが何だかばかばかしいような気がしながらも、私は荷物をトラックに運び始めました。

そのときです。小さな奇跡が起こりました。仕事が楽しくなり始めたのです。結局夕方までその仕事に文字どおり我を忘れて取り組み、気がついてみたらもう引っ越し荷物は全部トラックに積み込まれていました。

帰り道、自転車をこぐ体は汗ばんでいましたが、心は晴ればれとしていました。

そして次の朝は4時に目が覚めました。しかもはつらつとして。なぜでしょう。それは、しなければならぬという気持ちからではなく、自分から進んで行動することの喜びを味わったからです。

「いつもこんな気持ちになれたらなあ。」そう思いました。そういえば前にある教会幹部が、自分にもみんなと同じように調子のいいときも悪いときもあるので、調子のいいときに思いっきり頑張るのだと話していました。私もそうしようと思いました。床を出るとひざまずき、心にあるものを天の御父にすべて話しました。胸が熱くなり、涙がとめどなくあふれてきました。こうしてついに、福音を実践しようといろいろ努力してきたことが、実を結んだのです。



私が味わったこの平安と幸福に比べれば、物質的な報いなど本当に薄っぺらなものです。何しろ私は主のみこころに添って生活しているのですから。私は福音の何たるかを知りました。そうです。人を愛し、人のために働くことです。イエス・キリストの福音の生ける水ほど、人に長続きする満ち足りた気持ちを与えてくれるものはほかにないのです。☐

*ロバート・K・レイ：ユタ州西バウンテフルステーキ部西バウンテフル第6ワード部所属。

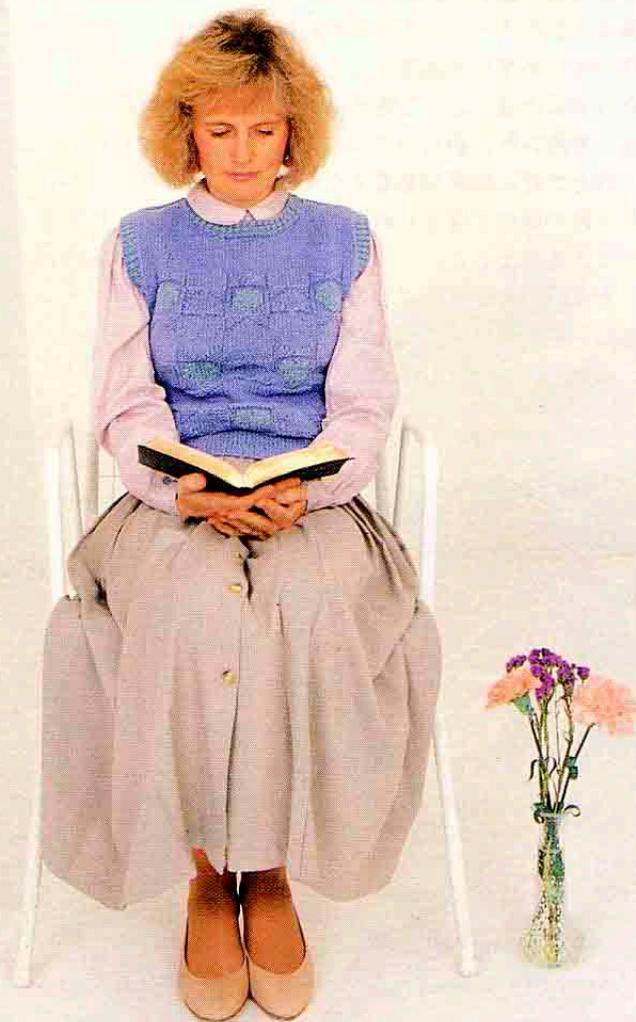
独身者の家庭の夕べ

ジュディス・F・バートン

「家庭の夕べを開くには、何人の人が必要でしょうか。ふたりですか。3人ですか。あるいはひとりでもいいのでしょうか。」

私がずいぶん前に出席したある集会で、副ステーキ部長がこう質問しました。副ステーキ部長は、たったひとりでも家庭の夕べは開けると答え、すべての人に毎週、家庭の夕べを開くように求めたのです。

独身者のための家庭の夕べ。それは実際にできるのでしょうか。できるとすればどのような方法があるのでしょうか。



このチャレンジを耳にしてからずっと、私は家庭の夕べを開くための様々な方法を試みてきました。よその家族の家庭の夕べに参加したり、自発的に、またはあらかじめ割り当てを決めて、独身者同士が集まって開いたり、文字どおりひとりだけの家庭の夕べを開いたりなど。その結果、家庭の夕べを通してさらに一層成長できる方法をいくつか見つけました。

教会員になって初めの数年は、よその家族の家庭の夕べに招待されることをありがたく思いました。どちらかといえば、参加者というよりも傍観者ぼくかんしやのような気持ちになりがちだったのですが、忠実な末日聖徒の家族の生活を見るよい機会でした。ヤングアダルトの年代に教会に入った私にとっては、この経験はとても貴重なものでした。

もうひとつ成果のあった方法は、テキサスにいる親友とふたりで行なった家庭の夕べです。今週は彼女の家、来週は私の家というふうに交互にそれぞれの家で、毎週日曜日にレッスンと夕食を共にしたのです。お互いにひとり暮らしでしたから、レッスンをしたり友情を深めるためということもありましたが、実は家庭の夕べという名目でおいしい食事を一緒に作って食べるのが楽しみだったのです。ほかの独身者グループと交流するのは、よいときもあればそうでないときもあります。家族同然に親しいグループもあれば、パーティーを開くことだけに興味があるようなグループもありました。それぞれの興味が違うために、一緒に計画を立てにくいことがよくありました。

現在、私が気に入っている家庭の夕べの過ごし方は、日曜日の夜だけ世間とのかかわりから離れて、自分だけの時間を持つというものです。家庭の夕べをする夜と、ただ普

通に家で過ごす夜とは違います。この時間には、やりがいのあることならどんなことをしてもよいと思いますが、開会の祈りだけは必ずします。そうするとなぜかその場の雰囲気が変わってくるのです。聖典の疑問点を調べたり、それに関してほかの本を読んだりしてもよいし、何か教養を高めるようなことをしてもよいのです。このようにして家庭の夕べを行なうと、実にすばらしい祝福を味わうことができます。家庭の夕べを通して得た知識によって、よい決断ができる場合が多いのです。

以前発行された家庭の夕べのテキストや現在発行されている「家庭の夕べアイデア集」(PBHT5197JA。管理本部経理課を通して注文できる)も、とても役に立ちます。伴侶や子供のいない人にとっては、家族や家族関係についてのレッスンをするのはむずかしいかもしれませんが、各自に



合わせて内容を変更すれば、人間関係の技術を学ぶのに役立ちます。このような技術は独身者にとっても大切なものです。仕事で成功するには、こうした技術が必要だからです。また私たちは福音にあって、決して望みを失ってはなりません。永遠の伴侶や自分の子供たちと接するときに、そのようなレッスンは必ず役立つときが来るのです。

家族中心のレッスン以外にも、独身者にそのまま適用できるレッスンや、子供のいる家族に限らず、だれにも当てはまるレッスンは数多くあります。

ある日、特別な家庭の夕べを持ち、私は祝福師の祝福を注意深く読み、現在の自分の生活に関連のある言葉を探し求めました。すると、改めて天父の愛を感じ、涙がでてきました。そして、祝福文を通して個人的な啓示と導きを与えられたことを再び心から感謝しました。それからすぐ、今後の目標を立てるための夕べを計画しました。ともすると、私は周囲の人々の目標に大きく影響されてしまうのですが、ほかの人の目標は自分にとってはふさわしくない場合が多いのです。それで家庭の夕べのときに、私自身の永遠の優先順位を考慮しながら、自分の進むべき道を考え直しました。

私たちは皆各々に、時間をもって、日々の生活態度や行動を福音の規準と照らし合わせてみる必要があります。神殿訪問と同様に、家庭の夕べも、マスメディアや仕事仲間、私たちの規準とは相いれない人々の声に耳を貸さずにすむよい機会です。このような機会に、自分に正直になり、自

分にとって価値ある理想とは何かを改めて吟味し、その理想に向かってまい進することができるのです。

独身会員の家庭の夕べの活動としては、そのほかにも次のようなものがあります。良書を読む、家族の歴史を調べる、伝道する、福祉や奉仕の活動を行なうなど。もしくは、愛する人や友人に手紙を書くのは、いつしてもよいことです。

やりたいことをすべてするには、とても時間が足りないと感じることもあります。けれども、たとえ余分に時間がかかっても、自分の霊を養い成長させるには、そのための時間を取ることがどうしても必要なのです。家庭の夕べを通して、私はより堅固な信仰を持ち、一層多くの知識を得ることができます。

私がひとりで開いている家庭の夕べは、だれにでも当てはまるものではないかもしれませんが。独身者が自分の生活の中で家庭の夕べをどう行なうかは、各個人に任せるのが最もよいのです。つまり、各人が自分の状況や個性に合った方法を選ぶべきなのです。また、子供のいない独身会員は、家庭の夕べをいわゆる典型的な家族のためだけのものとする必要はありません。私は自分の経験から、家庭の夕べが独身者にとっても祝福となり得ることがわかりました。□ *ジュディス・F・バートン：メイン州バンガーステーキ部リンカーン支部所属。



ティンパノゴス山での一夜

スコット・カーリン

肌をさすような冷たい空気が流れています。ここは標高3,600メートル。太陽は見る間に溪谷の山あい沈み、一番星が現われました。2,100メートル下の世界を見下ろすと、無数の明かりがキラキラ輝いています。ユタ盆地の住民たちが、暖かい家で夕げの食卓に着くころでした。

暖かい寝袋にくるまっていると、ふと疑問がわいてきました。雪と氷を突いて10月末のティンパノゴス山の頂上へと私を駆り立てた、あの不思議な衝動はいったい何だったのだろうか。登山は寒く、厳しいものでした。それなのに、なぜここまでやって来たのだろうか。

ロースクール(大学院に相当する3年間の法学研究機関)の2年生だった私は、山歩きの経験は十分にありましたが、もう何か月も山に登っていませんでした。山頂は、この秋降った初雪に一面覆われていました。しかし、ふとなぜか、ティンパノゴス山の頂上で夜を過ごしたいという気持ちになったのです。

むちゃな考えでしたが、昼ごろ、私はキャンプ用具をリュックサックに投げ込むと、登山口のある溪谷に向かって車を走らせました。

冒険心だったのでしょうか。それとも法律の勉強に明け暮れる毎日に変化を求めたかったのでしょうか。

登り始めたときには、日暮れまで数時間しかなかったので、散在する木々の間の小道を急ぎました。やがて険しい山の東側の斜面を登っていました。

数キロ登っていくと、驚いたことに、前方にもうひとりいるのです。近寄ってみると、どう見ても普通の登山者には見えません。中年の女性が、苦しそうに重い足どりで頂上を目指しています。荷物は小さなリュックサックだけで、夜間の装備は何もしていません。

その女性は朝からずっと登っているのだと言います。「山歩きは生まれて初めてだけど、頂上を目指すつもりよ」と誇らしげに言いました。





「頑張るのはいいのですが、困ったことにならないように気をつけてくださいね」と私は注意しました。「たぶん夕暮れまでには頂上に着けないでしょうから、引き返された方がいいと思いますよ。さもないと暗やみの中で帰り道を捜すことになりますから。」

きっとすぐに引き返すと思ったので、私はその女性を追い越して登り続けました。何といたっても彼女は寝袋すら持っていなかったのです。もし朝まで山で身動きがとれなかったら、凍死してしまうでしょう。

私は山の東側の肩にある湖のそばを通り過ぎて、標高3,000メートルの新雪の中を歩き始めました。峰の険しい北側の斜面をあえぎながら、くたくたになっ

て越えると、ところどころ雪や氷で覆われた山肌の向こうに、さらに険しい150メートルの急勾配が待ち受けていました。もしここで転落でもしようものなら、数千メートルも谷底へ一気に滑り落ちることになるでしょう。

刃のように切り立った尾根をついに登り終えると、そこが3,580メートルのティンパノゴス山の頂上でした。足もとのまっすぐな西側の岸壁からは、ユタとソルトレーク盆地を見渡す息をのむような眺めが一望できました。

私は、頂上に建つ屋根のある小さな避難所に寝袋を広げました。石の床はお世辞にも快適とは言えませんが、何はともあれ腰までの高さの壁のおかげで、山から転がり落ちる心配はありませんでした。

日が沈むと、気温が急激に下がり始めました。私は眺めを楽しむのもそこそこに、迫りくる夜に備えて暖かい寝袋にもぐり込みました。

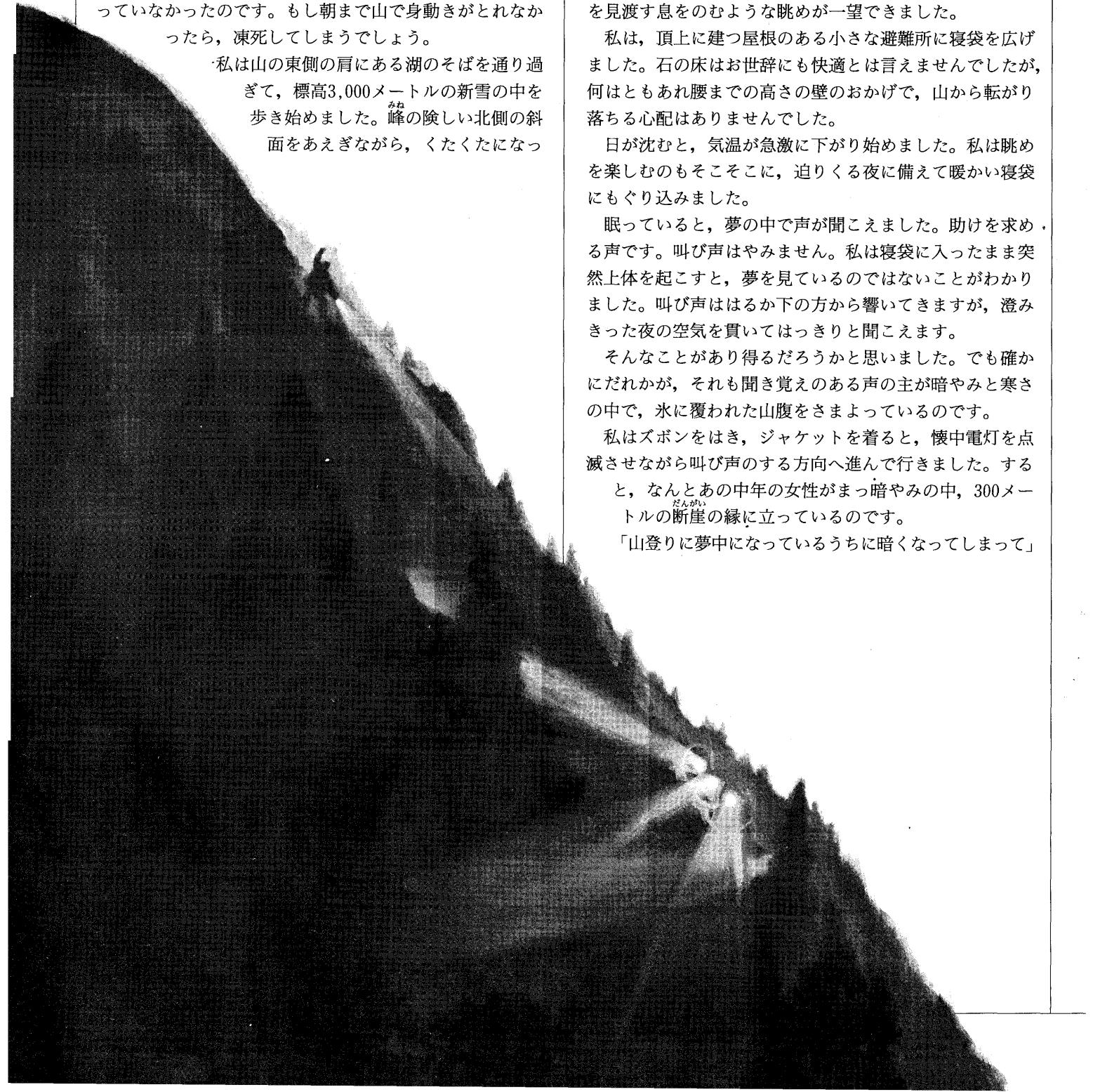
眠っていると、夢の中で声が聞こえました。助けを求める声です。叫び声はやみません。私は寝袋に入ったまま突然上体を起こすと、夢を見ているのではないことがわかりました。叫び声ははるか下の方から響いてきますが、澄みきった夜の空気を貫いてははっきりと聞こえます。

そんなことがあり得るだろうかと思いました。でも確かにだれかが、それも聞き覚えのある声の主が暗やみと寒さの中で、氷に覆われた山腹をさまよっているのです。

私はズボンをはき、ジャケットを着ると、懐中電灯を点滅させながら叫び声のする方向へ進んで行きました。する

と、なんとあの中年の女性がまっ暗やみの中、300メートルの断崖の縁に立っているのです。

「山登りに夢中になっているうちに暗くなってしまって」



とその女性は説明しました。努めて平静を装っている様子でしたが、その興奮した口ぶりは、恐怖におののいていることを物語っていました。「道に迷ってしまったんです。頂上までこんなに遠いとは思いませんでした。ふたつ持っていた懐中電灯も、1時間ほど前がけから落としてしまっ

て。」
私たちはよろよろしながら尾根の方に戻りましたが、女の人はがたがた震えていました。ジェーンという名前のその人は、「主人はまだ登山口の車の中で私を待っていてくれると思います」と言いました。

避難所に戻ると、私は自分の寝袋をジェーンに渡して、それにくるまっているようにと言いました。最初は遠慮していましたが、あまりの震えに結局、承知してくれました。一方、私は手持ちの暖かい衣類を全部身につけ、さらにジェーンの子備のセーターも巻きつけて覚悟を決めました。間違いなく人生で最も長く寒い一夜になると予想できたからです。

私はあまりの寒さに眠れず、ジェーンも神経が高ぶっていたので、私たちは眠らずに話をしました。その夜、私は有名な生物学者のジョン・ミュージアのことを思い出しました。ミュージアはアラスカの氷河にひと晩閉じ込められたことがあり、朝までスコットランドのジグ（ダンス）を踊って無事に切り抜けたのでした。私は同じことをしなければならぬほど寒くならないようにと願いました。

朝4時。気温、氷点下15度。捜索救援隊の明かりが450メートル下に見えました。私は懐中電灯で合図を送り、ジェーンが無事であることを知らせ、大声で叫びました。「夜が明け始めたらすぐに下山します。待機しててください。」

叫び声は、静かな山の空気の中で非常にはっきりと響きわたりました。遠くから聞こえる救援隊の「了解」という返事も容易に聞きとれました。

朝日が山にさし始めると、私たちは険しい、凍りついた斜面を降り始めました。救援隊のところに着く前に、ジェーンと私は一緒に雪の中にひざまずいて、惨事を避けられたことを天父に感謝しました。標高3,000メートルで捧げたこの祈りを通して、私は聖典の約束が真実であることを確信しました。御父の許しがなければ、1羽のすずめも地に落ちることはないのです。ましてや私の新しい友人が地に落ちるはずはありません。

やっとのことで下山した私たちの姿を見て、ジェーンのご主人は泣いて喜び、安堵の胸をなでおろしました。ご主人はきっとその朝早く私たちの明かりが見えるまで、妻は死んだものと思っていたのでしょ。捜索救援隊に加わったボランティアの人たちも、皆ほっとしていました。彼らの話では、毎年山から不幸な登山者の遺体を運ぶとのことでした。

なぜ自分がこんな季節はずれにティンパノゴス山に登ったのか、そのときはっきりわかったような気がしました。今でもその思いに変わりはありません。私があそこへ導かれたのは、間違いなく、ジェーンを頂上から無事に下山させるためだったのです。山へ登りたいというあの抑えがたい衝動に従ったことは、決して間違いではなかったのです。3,000メートルの高さにおいても、主は実に不思議な方法で人を動かされます。□

*スコット・カーリン：弁護士。ソルトレーク・ミルクリーグステーク部ミルクリーグ第5ワード部所属。



モルモン経 子育てのガイド

ゲリー・プリンリー

新しい週を迎えるごとに、イライラは募るばかりでした。やんちゃな3人の子供と、間もなく伝道部長として赴任する予定の多忙な高等評議員の夫を抱えて、自分を霊的に保つことが次第にむずかしくなっていたのです。教会に行くのは確かに益になりましたが、夫は責任でないことが多く、ひとりの子供に足をばたばたさせないように注意したかと思うと、別の子の涙をふいてやり、そして下の子のおむつを替える、これを日曜日にみんなひとりで行わなければならないのです。

もちろん、何をすればいいかはわかっていました。でもそれを生活の中でどう生かしていくかがわからなかったのです。今まで数えきれないほどのレッスンの中で何百回となく引用されたあの言葉。心に刻まれないはずはありません。

常に祈る。

聖典を読む。

戒めを守る。

戒めは守っていました。お祈りもしていたと思います。それに、聖典も時間のある限り読んでいました。頻繁に読めなかったのは、ただ時間がなかったからなのです。四六時中家事に追われていても、洗剤の箱に書いてある注意書きさえ読めないくらいですから、聖典のような心を高めてくれる読み物に手を出すなど、夢のまた夢だったのです。

それに、約束の地へのリーハイの旅など、私の抱えている問題とどう関係があるというのでしょうか。わからず屋の2歳の子にシャワーをさせたり、4歳の息子におもちゃを片づけさせたりする方法が、モルモン経のどの章の何節に書いてありますか。ニーファイ人とレーマン人との次の戦争でどちらが勝つかということよりもっと大切な、心配しなければならない問題があるのです。そう、私の3人の子供はいつも家の中で「戦争」をしていたのですから。

こうして、家事と教会の責任に追いまかれる日が何週間も何カ月も続きました。その間、私は子供の要求には喜んで応じてきました。今の時期、主は私にそれを望んでおられると考えたからです。でも、依然として聖典を読む時間はありませんでした。「与えられた時間には限界があるんだから。」私はそう言って自分を慰めました。でも、私は期待されていることをすべてしていたのでしょうか。していたとしたら、約束の恵みである喜びと心の平安はどこにあるのでしょうか。掃除やおむつの交換からどのようにして霊の成長を勝ち得るのでしょうか。毎日の家事や子育ての義務と、私の霊が渴望している日の栄えの平安をどう調和させていったらいいのでしょうか。

このままじゃいけない。まったくの八方ふさがりの中で、私の霊は苦痛にあえいでいました。そして、そのような中で気づいたのは、1日2、3度鍵をかけて部屋に閉じ込め、自分の心の内をすべて天の御父に打ち明けるしかないということでした。

それから何週間かたって、監督は私を扶助協会の霊的生活の教師に召しました。私は召しを受けることが自分の問題の解決になるとは考えていなかったのですが、とにかく一大決心をして受けることにしました。しかし、この召しは私を変えたのです。この召しを果たすために毎日勉強して備えなければならなかったのですが、その中でふたつのことを学びました。まず、動機が強ければ聖典を読む時間が取れるということです。私の場合は、準備をきちんとしないと大変なレッスンになるという恐れが動機でした。2番目は、聖典を一生懸命祈りながら勉強すれば、どのような疑問やジレンマに対しても答えが見いだせるということです。

そんなある日、ひとつの考えが私の脳裏をかすめました。「聖典が扶助協会のテキストの中の疑問にみんな答えてく



だと感じたのです。そこで夫のダグラスと私は、子供たち一人一人と定期的に面接をし、一対一でいろいろな事柄をするようにしました。すると子供と特別な日や時間を設けるのがたやすくできるようになり、寝る前のあの戦争のような状態もなくなってきました。つまり、私たち親が子供たち一人一人に個人として接することにより、子供の方は否定的な方法で親の愛や関心を求める必要がなくなってきたのです。こうして家庭の中での自分の存在や立場がよくわかってくると、互いに協力しようとする気持ちが増してきました。

子育てに役立つもうひとつの例は、ニーファイ第二書の28章30節です。ここで主は、私たちの方で受け入れて理解する備えのできていない教えを授けることはないとおっしゃっています。つまり、私たちは信仰と従順の度合によって少しずつ教えを授かるのです。この教えを自分の子供に当てはめてみて言えることは、それぞれ年の違う子供たちが理解や行動、感情の面でどれほど違うかを知らなければならないということです。それがわかれば、能力以上のことを強要することがなくなるからです。

れるのなら、子育ての疑問にだって答えてくれるんじゃないかしら。」そうです。モルモン経を読むのに目的が出てきたのです。子育ての例が出てくるたびに、私はその箇所を短い感想も交えて書き留めました。そして全部読み終えてから、見つけた例を教わった原則やその原則の応用という点から分類しました。

たとえば、私の場合子供に手伝いをさせるのが大変でした。互いにけんかばかりしていて、手伝いどころではありません。やむなく強制的にやらせたり、怒りをあらわにしたりしましたが、子供たちはその仕返しを人前や私が手を放せないときなどにするのでした。それに関する聖句がアルマ書36-42章にありました。これはアルマが息子たちに向けて語った言葉です。私はそれを読んで、アルマはなんとよく息子たち一人一人を理解していたことだろうかと思心しました。そして子供たち一人一人との交わりこそが鍵

こうして聖典の学習が日課になると、今度は自分が戒めをどの程度熱心に守っているかが気になりだしました。そして、家事や子育てが義務ではなく、自分自身の天の両親に近づくための機会だと思えるようになってきたのです。子供たちがけんかをしたり、汚れた洗濯物や食器が山と積まれた中でこうした見方を持ち続けることは、簡単なことではありません。でもふだんから霊の食物を取り入れていれば、たまにある、こうした大変な状況も何とか切り抜かれるものなのです。

今私は、扶助協会の教師として確信をもって証できます。どんな問題でも、聖典の研究によって答えの与えられないものはありません。□

*ゲリー・プリンリー姉妹はテキサス・ダラス伝道部に所属し、夫のダグラス兄弟は伝道部長である。

子育てについて——モルモン経の教え

子育てについて、私の好きなモルモン経の聖句を以下に紹介します。
もちろん、このほかにも応用できる聖句があるでしょう。

原則	参照聖句	適用
1. 父親（いない場合は、母親）は、家庭での霊的な指導者であり、子供を教える責任があります。	I ニーフアイ 1 : 1 I ニーフアイ 15 : 30 I ニーフアイ 16 : 23-27	父親は家庭の夕べを管理したり、家族に証を述べたりします。また、家族と一緒に聖典を学び、模範を示し、毎日家族の祈りを捧げ、家族会議を開き、みずからの神権を尊びます。
2. 親の務めは子供が幼いときから始まり、永遠に続くものです。	I ニーフアイ 4 : 5 - 6 アルマ 56 : 47-48 モーサヤ 27	子供の信頼を得るには、親しく一貫性のある親子の関係を築いていく必要があります。親は決してあきらめずに、絶えず祈り、愛し、祝福し続けていかなければなりません。
3. 子供一人一人との関係がきわめて大切な意味を持っています。	アルマ 36-42	定期的子供と個別に話し合うようにしてください。子供が親とふたりだけの時間を過ごせるように、何か工夫しましょう。
4. 子供一人一人の個性を理解する必要があります。	III ニーフアイ 26 : 9	子供はそれぞれの発達段階で、肉体的、精神的、情緒的にどのようなことができるかを理解してください。あまりに多くのことを早くから期待しすぎないようにします。子供はまず親を信頼することから学んで初めて自分を信頼できるようになります。
5. 両親は謙遜で素直であり、みずからの過ちを認め、悔い改めなければなりません。	アルマ 36	親の側の過ちを認め、不当な叱責や乱暴な態度を改めてください。赦しを求めましょう。
6. 子供を教えるには、何よりも親が模範を示さなくてはなりません。	III ニーフアイ 27 : 21, 27 アルマ 25 : 17	安息日を守る、健全な書物や映画を選ぶ、教育を重視する、自制心や正直の徳を身につける、権威を尊ぶなどの親の価値感を行動で示してください。親の信念を子供たちに説明し、一緒に話し合しましょう。
7. 子どもは親にほめられたり励まされたり、親から信頼されるとわかるとさらに学習に励むようになります。	III ニーフアイ 27-30 ヒラマン 10 : 5 イノス 1 : 1-8	子供たちの力を信頼し、上手にできたときにはほめてあげてください。失敗したときは、親もがっかりしたけれども愛していることを伝えてください。そして、もう一度やってみようとしてあげましょう。

原則

参照聖句

適用

8. 必要なときには子供たちを叱り、その後で親の深い愛を示してください。

ヒラマン15：3
イテル2：14

子供たちが間違いを犯しても、親の愛は変わらないことを理解させてください。子供たちに、神の子として持っているみずからの可能性を教えましょう。

9. 規則を設け、規則に従うならどのような結果をもたらされるかを教えてください。

I ニーフアイ 8：37-38
アルマ30
III ニーフアイ 27：16-20
イテル3：19, 26

子供たちと一緒に規則を作り、それに伴う結果について話し合います。子供たちに、自由意志を用いて行動を選択させます。責任をまったく負わせなかったり、逆に、「だから言ったじゃないか」というようなやり方は避けてください。

10. みずからの自由意志を行使できるように指導します。

アルマ24：12-18
ヒラマン14：30-31

幼いうちから自分で簡単なことを決めさせ、自信や知恵を身につけさせます。成長するに従って、次第に大きな決断を下せるようになるでしょう。

11. 子供の言うことによく耳を傾ける必要があります。性急に助言したり、非難したりしてはなりません。

アルマ20 (父親の良くない例)

外見だけでは判断できないことがよくあります。子供の立場に立って好意的に解釈し、悪く取らないようにします。子供は話すことによって自分の問題を解決していくのです。自分の話を聞いてくれる人が必要です。すぐに助けを与えることは避け、子供が自分で解決策を見いだせるようにしてください。

12. しつけは必要ですが子供たち一人一人の必要に合わせてしつけなければなりません。

モーサヤ26：25-36
アルマ30：43-53
モーサヤ4：14-15

各自に合ったしつけの方法を考えなければなりません。次のようにするとよいでしょう。きまりを守らない子供をほかの子供たちから離して、決まった場所や、部屋に連れていく。好ましくない影響力から子供を守るために外出させず、家で親の助言を受けて決断させる。けんかした兄弟姉妹同士と一緒に仕事をさせる。意見の食い違いが調整できるように、互いの役割分担を交替させ、相手の立場に立って考えられるようにする。

13. ~~子供に労働と奉仕の喜びを教えます。~~

~~モーサヤ4：15-16
モーサヤ6：6-7~~

子供たちは自尊心を持てるように、家族の一員として互いに助け合う必要があります。

また酔っ払ってる

アルコール中毒の親と共に

これは私の生き立ちです。楽しい話ではありませんから、あまり人には話したくありません。でも、あなたやあなたの友達の身の上にもごく普通にある話です。私の場合は良い解決方法が見つかりました。ですから、私の話がお役に立てばと思って筆をとった次第です。

左側の欄はアルコール中毒の親を持った人のためのアイデア、右の欄はその友達のためのアイデアです。

私は全部の疑問にすべて答えを出そうとは思いません。望みを抱いて祈り、一生懸命生きることしかできないことだって往々にしてあるのですから。

もちろんアルコール中毒に陥るのに男女の差はありませんが、ここでは便宜上父親と娘という関係にして話を進めていきます。

あなたのお父さんがアルコール中毒の場合

お父さんがアルコール中毒になった責任はあなたにはありません。あなたの過ちではないのです。あなたがどんなに完全でも、お父さんは酒をやめないかもしれませんし、逆に子供がどんなに悪いことをしていても酒は飲まないという親もいます。

多分あなたはお父さんが酒

私の体験

私の父は自分はアルコール中毒ではないと言い張っていました。「自分はビールしか飲まない。ビールだけでアルコール中毒になるはずがない。」これが父の言い分でした。私は父が好きだったので、しばらくはその言葉を信じました。父もそう信じていたことでしょう。

父はよく2、3日家をあけました。そして酔っ払って帰ってくるのです。

にこっと笑って「飲んでくるよ」と言って家をあけるのではありません。いつも腹立ちまぎれに家を出るのでした。

腹を立てる原因はたくさんありました。

もしあなたの友達のお父さんがアルコール中毒だったら

あなたの友達は、父親が酒びたりなのは自分のせいだと思ふことがあります。酔っ払っている自分の父親を見るたびに、自分が情けなく思えてくるのです。

友達に、それは彼女の責任ではないことをわからせてください。

また父親が酒をやめるよう



をやめてくれるように神様にお願いしたことでしょう。それでもやめてくれないのですね。だからといって神様があなたを愛していないわけではありません。神様はあなたを愛しておられます。神様は、あなたのお父さんの自由意志を尊重していらっしゃるのです。どんなことでも強制されることはないからです。

秘密

親のアルコール中毒の問題を人に話すのは勇気のいることですが、それにひとりで耐えるのはもっと大変です。

地元の教会にはカウンセラーがいて相談に乗ってくれるかもしれません。監督さんに頼めば紹介してくれるでしょう。もちろん監督やカウンセラーは、あなたとの話は内密にしてくれます。

またカウンセラーがいなければ、監督や教師など、信頼できる友達に打ち明けてもよいでしょう。

私の泣き声に腹を立てたり、私がたくさん質問をするごとに腹を立てたり、私の言うことが筋が通っていないと腹を立てたりするのです。

ですから、しかられるのを恐れて私は父にあまり話しかけなくなりました。すると今度は何も話さないと言って怒るのです。

父は大体において金曜の夜から飲み始めました。私は毎週、週末まではなんとか頑張って耐えようと思いました。私の方で何か気に障ることをしなければ父の機嫌を損ねることもないだろうと思ったからです。

ときどき、金曜日になってもお酒を口にしないことがあって、私は自分が親切にしてあげているからかなと考えました。母は、そう思ったら間違いないよと言います。でも、私がどんなに頑張っても父は決して酒をやめようとはしません。私はみんな自分のせいだと思うようになりました。

私は父が二度と酒を口にしなくなるように祈りました。でもだめでした。自分にまだ足りないことが多いから天の御父は父の酒をやめさせてくれないんだ、私はそう考えました。

こうして私は何をやるにも用心深くなりました。家の中でもめ事を起こしたくなかったからです。今振り返ってみるといつも人に受け入れられることを第一に考えていたようです。とにかく頑張ってうまくやれば、人は父が酒飲みだということに関係なく自分を好きになってくれると思ったのです。

秘密

私の母は大変敬虔な家族から嫁いできた人です。いつも一緒に教会に行き、家族みんなで楽しい時を過ごすといった家族です。私は母の子供のころの話が大好きでした。母の子供のころに自分を置き換えて空想してみるのでした。そんな母ですから酒飲みの夫との生活でどれほど心が傷つけられたことでしょう。

母は父のアルコール中毒を恥じていました。だれにも言わないようにとよく言われたものです。「秘密ですよ」が母の口癖でした。

私は母が好きでした。だから約束も守りました。でも寂しい気持ちでいっぱいでした。教会の中でこんな家庭を持っているのは自分だけなのではないだろうかと思ったのです。

ですから、ほかにもそういう境遇の人がいることがわかったらどんなにか楽だったろうなと思います。

に祈ったにもかかわらず酒をやめないで、自分は神から愛されていないと思っているかもしれません。

自由意志の原則を理解できるように助けてあげてください。

健全な自意識を育てられるように手伝ってあげましょう。

その際、誠実なほめ言葉は結構ですが、お世辞は禁物です。

失敗しても、努力したことには価値があることを教えてあげましょう。またその努力は人に受け入れてもらうためにするのではないことも理解できるように助けてください。

秘密

友達の家庭生活に無遠慮に足を踏み入れることは避けましょう。友達が話したいと言ったときに初めて、その苦しみは何も言わずにただじっと聞いてあげるのです。

「それはつらかったでしょう」とか「大変だったのね」とかいう言葉は、あなたが話を親身になって聞いていることを相手に伝えます。

あなたが友達のそばにるのは友達本人や父親を裁くためではありませんし、どう考えてどう行動するのかを教えるためでもありません。また、彼女の問題を解決してあげるためでもありません。耳を傾けて思いやりを示すためののです。

孤独

教会でひとりで座るなんて楽しくありません。

神殿結婚のレッスンも心を傷つけるばかり。

父と娘の活動はもう苦痛です。

でも私たちは皆兄弟姉妹であることを忘れないでください。ワード部にはあなたの友達になりたいと思ってくれる、親切で愛にあふれた人々がたくさんいます。そのような人にあなたから近づきましょう。そうすれば彼らもあなたに近づいてきます。

また、自分は神殿で結婚し、教会に活発に集うのだと決心してください。

そしてその間にお父さんにも何かに参加してもらいましょう。完全でなくても教会の活動には参加できることを知らせてあげてください。

恐れ

あなたの人生は恐れでいっぱいです。酔っ払って事故を起こさないかとか、離婚ざたになるのではないかとか、人にさげすまれるのではないかとか、あげればきりがありません。

できれば恐れを消し去ってしまう簡単な方法を教えてあげたいのですが、私にはできません。ひとつ言えるとしたら、あなたの恐れが多くは現実と根差しているということです。

私にあげられるのはふたつのアドバイスだけです。ひとつは、恐れを抱いたときには祈ることです。天の御父はあなたの恐れをご存じて、それ

孤独

聖餐会で家族同士で座っている人たちがいます。顔を見合わせながらほほえんでいます。父に来てほしい、家族一緒に座りたい。そう思いました。

でも父は教会に足を向けることは決してありませんでした。「ビールを飲んで人間なんてみんなきらいなのさ」と父は言いました。ワード部では父と子のパーティーがあつて、私はその計画を手伝いました。でも出席したことはありませんでした。

また父の日には私たちのワード部では父親にバラの花を配ります。私は自分の家の庭からバラを摘んで教会に持っていきましたが、父は来ませんでした。

教会の中で神殿結婚の話を書くたびにいやな気持ちがありました。また他人が私の家族のことをあれこれ言っているのを耳にして、怒りを覚えたこともあります。父が酒をやめない限り神殿には行けない、私はそう思いました。私は父も母も愛していました。ですから永遠に一緒にいたかったのです。クラスで神殿のことが話題に上るたびにいたたまれない気持ちでした。

でも私は教会に行くことをやめませんでした。また、自分は決して酒は口にしないと決心しました。そして、神殿で結婚することも心に決めたのです。

私は今はもう大人です。酒は決して飲みません。神殿結婚もしました。そして子供たちが自分と結び固められていることをうれしく思っています。

恐れ

私には恐れていたことがたくさんありました。

まず、父が酔っ払い運転で事故死してしまうのではないかと恐れていました。また、人をひいて殺してしまうのではないかとも思いました。

私は夜遅く、部屋の明かりを全部消してベッドに横たわり、耳をすましていたものです。父の車が戻ってくるのを待っていたのです。何度も祈りました。「無事に帰って来られるように助けてください。事故を起こさないように助けてください。」

朝になって、私は車庫に車の様子を見に行きました。数センチで家の壁にぶつかるような駐め方をしているときもあれば、隣の家の花壇の花を倒してしまっていることもありました。

また私は父に恥ずかしい思いをさせられるのではないかという恐れもありました。父は朝目が覚めても酔いがまだ残っていて、千鳥足でベッドから抜け出し、ビールのにおいをさせながらばからしいことばかり言うのです。私はそ

孤独

友達にとっては、教会の集会や活動さえも苦痛であるかもしれません。彼女が集会でひとりで座っていたら、あなたの家族と一緒に座るように誘いましょう。

父と娘の活動のときは、あなたのお父さんと一緒に参加するように誘いましょう。また代理の父親を探してあげましょう。

親と結び固めをする見込みのまったくない人にとって、神殿結婚のレッスンは悲しい以外の何ものでもありません。このことはよく考えてあげてほしいと思います。

父の日には教会で父親に花やカードを贈る場合は、ひとつだけ彼女の父親のために取っておいて、家に帰ってから彼女が渡せるようにしてあげましょう。

恐れ

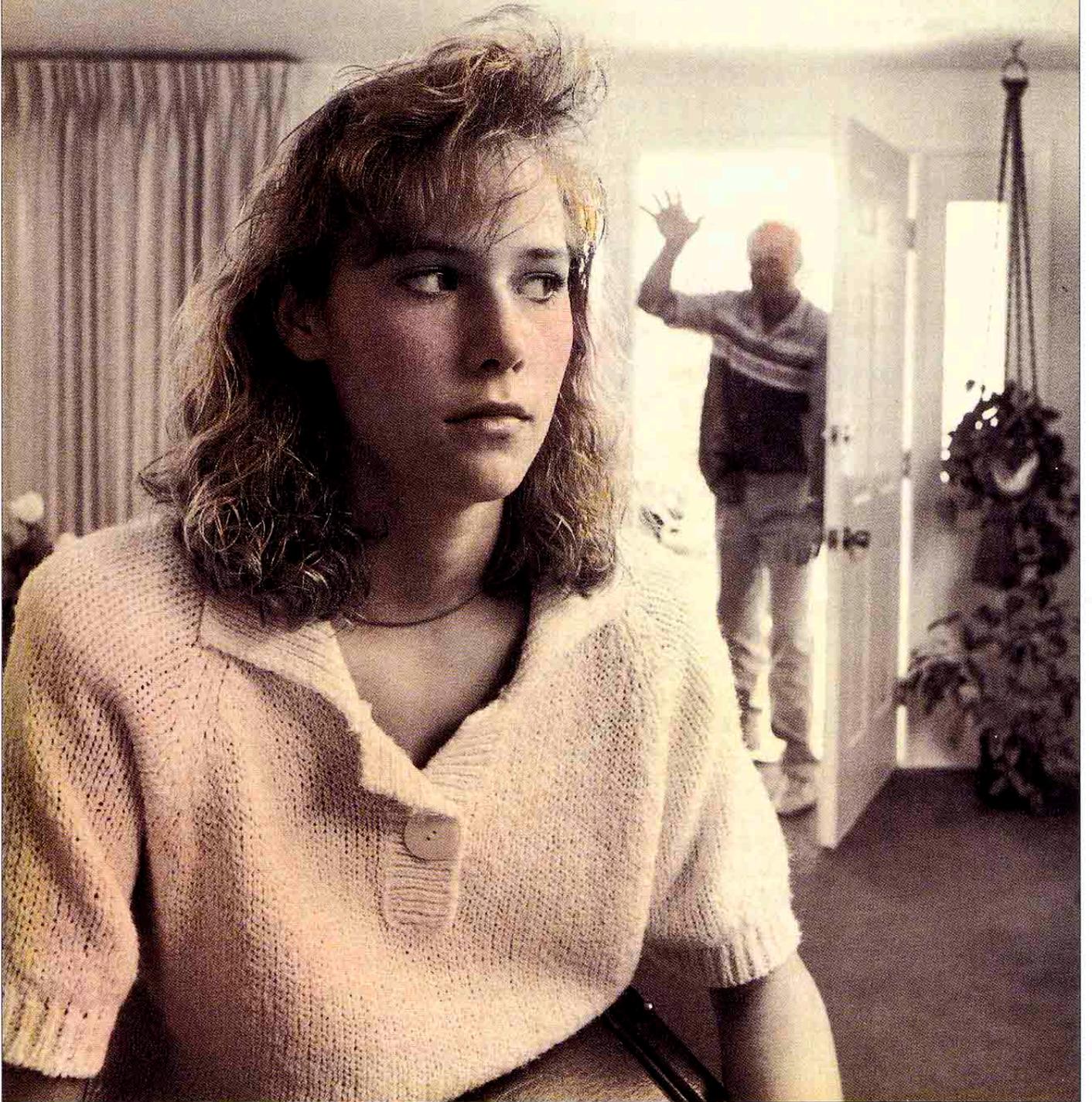
あなたの友達には、お父さんが酔っ払い運転で事故を起こすのではないかと恐れているかもしれません。また両親の離婚について心配しているかもしれません。それと同時に、今の苦痛に満ちた生活が永久に続くことへの恐れもあると思います。

それに父親が常軌を逸脱した行動をすることで世間の恥になるという恐れもあるでしょう。そのことが原因で友達を失ってしまうのではないだろうかとの心配もあります。

しかし、こうした恐れの中であなたが力を貸せるのは最後にあげた恐れだけなのです。あなたが彼女を愛し、尊敬

あなたの友人はあなたとは別の世界に住んでいるようなものです。恐れが根を下ろし、何もかも複雑に入り乱れた世界です。あなた自身が彼女の苦痛を消すことはできません。

できるのは、思いやりを示すことです。理解し、受け入れ、助け、支え、励まし、愛することです。



を克服できるように助けてください。

第2に、だれか信頼できる成人のカウンセラーと話をし、本当に危険な恐れと妄想的な恐れを区別してもらいましょう。現実の恐れがあまりにも多いのですから、妄想的な恐れなど入り込ませる余地はないはずで。

恥と怒り

お父さんに対して怒りの気持ちを抱いたり娘であることを恥じる気持ちがあっても、それを罪だと思わないようにしましょう。怒りを覚えてもかまいません。だれでもあなたと同じ立場に立たされたら怒りを覚えるのですから。

またお父さんを許すことができないでいる場合は、許せるように努力し続けてください。でも、許せなくても罪悪感を持たないようにしましょう。

許しという徳はなかなか身につけることのできないものです。だれもあなたを責めないでいましょう。

れがいやでした。

心からの友人たちはそれでも私に親しみを抱いてくれましたが、酔いどれの父の存在は恥ずかしい限りでした。

もうひとつの心配は、父と母が別れるのではないかといいことでした。父は酒が入るとよく母とけんかをしました。父はクローゼットの中に黒い皮のスーツケースを持っていたのですが、けんかをするとよくそのスーツケースを取り出し、自分の着る物を詰め始めたものです。けんかがまだ明るうちから始まったときは、私はいたたまれず外に出ました。あるときはもうだめだと思って、父の白いポケットナイフをこっそり持ち出しました。何か形見が欲しかったからです。

また逆に、これ以上離婚せずにいたらどうなるのだろうかとも考えました。ふたりが一緒に生活している限り、まともな家庭生活は望めないのですから。

私は母と一緒に祖母のところに行って暮らすことも考えました。安全だし、良い考えだと思ったのです。

恥と怒り

映画やテレビでは美男美女が酒を飲んでいる姿がよく映し出されます。見ているとずいぶん格好よく見えるものです。

でも現実はそのものではありません。私の父は決して格好よくなんかありません。本当にいやなことをするんです。ベッドで失禁しつさんするんです。シーツや毛布をはがして、あの大きなマットレスをひっくり返さないといけません。マットレスを引き出して立てかけ、反対にするのですが、重いのでときどきうまくいかず、マットレスが私の方に倒れてくることがありました。ちょうど顔のところに、ぬれた臭い部分があたるのです。

それから父はよくもどしていました。1回だけじゃなく何度も繰り返すのです。私の寝室は父の寝室の隣ですからたまったものではありません。私は思わず枕に顔を埋めました。あのおいはどうしようもありませんでした。

また酔っ払ったときは裸でそのへんをうろろすることもありました。

父の場合暴力を振るうということはなかったのですが、酔うとひどいことをする人は大勢います。子供をなぐったり家族を虐待したりします。

私はもう大人ですから父のことは許せるようになりました。アルコール中毒は病気で、治療が必要だということがわかっています。父はそうした助けなしに彼なりに最善を尽くしたのです。でも父と同居していたときはとても許す気にはなれませんでした。

していることを、彼女がよく理解できるようにしてください。あなたの友情があれば、たとえ恐れがあったとしても耐えることができます。

恥と怒り

酔っ払った人は人を不愉快にさせるようなことをします。子供を虐待することさえしかねません。

あなたの友達はそのことで恥ずかしい思いをし、また父親に対する腹立たしさでいっぱいになっているかもしれません。また、腹を立てていることに罪悪感を抱いている場合もあります。腹を立てても当たり前なのだとすることを知らせてあげましょう。

その怒りをコントロールして、重大な問題に発展しないように助けてあげればいいのです。

クリスマスのとき

お母さんと一緒に計画して、休みの日を弟や妹にとって本当に楽しい日となるようにしてください。そして、本当に楽しい日にするには人のために何かをしてあげるといふ気持ちが大変なことを忘れないようにしましょう。

またあなたの友達があなたを助けたいと言ったら、喜んで助けてもらいましょう。そうすることで彼らもみずからを輝かせることができるからです。

では何を

あなたの最大の課題は自分自身です。まず、ひとりぼっちではないことを自分に言い聞かせましょう。天の御父はあなたのことを何もかもご存じであり、あなたを愛しておられます。あなたが流した涙や捧げた祈りで天の御父が気づいておられないものはひとつとしてありません。御父はすべてがあなたにとって良くなるように願っておられるのです。

御父は靈感と慰めを与えてくださいます。

教師や指導者、友人を送ってあなたを助けてくださるでしょう。彼らの助けと愛を喜んで受けましょう。

自分をあまり責めないでください。明日までに完全にならなければいけないということはありません。

一生かけて頑張るのです。そう考えれば楽になりますね。

必ずできます。いろいろ大変なことがあるかもしれませんが、必ずできます。

決してあきらめないでください。

クリスマスのとき

クリスマスイブのときでした。私はキラキラと輝くつららや赤と白のライトで飾られたツリーのかたわらで、ひとりぼつねんと座っていました。父はいません。酒場で飲んでいるのです。

クリスマスはそんなものじゃない。私はそう思いました。酒びたりの父のために、誕生日もちっとも楽しくありませんでした。感謝祭も、新年も、復活祭も、そのほかどんな行事も父の酒のためにめっちゃめっちゃになってしまったのです。

休日とはときとして一番寂しく苦しい日となりました。休日になると、自分が描いている理想の生活と現実の生活との違いが、ますますはっきりと感じられたのです。

では何を

ほとんどの人は最善を尽くそうとします。正しいことをしようと一生懸命です。

父も最善を尽くしたと信じています。もちろんアルコール中毒者の会に入っていたらもっと良かったかもしれせん。あるいは専門の病院やカウンセラーに相談したらもっと助けを得られたかもしれません。でも父は助けを求めませんでした。

父と一緒に生活は大変でした。もういやでいやでたまりませんでした。また人目を気にすることもありましたし、寂しく思うこともありました。

恥ずかしく思ったり、怖いと思ったこともあります。

またモルモンの隣人が父をきらうのを見て腹を立てたこともあります。しらふのときはいい人なのです。なぜ人は父の一面だけを見るのでしょうか。

私の子供のひとりが、「お母さん、子供のころどんな楽しいことした？」と聞きました。初めは何と言ったらよいかわかりませんでした。もちろん楽しいこともありました。でも、子供のころのことで心に焼きついているのは、みんなアルコールに関係のあることなのです。

アルコールは私から子供時代の楽しみを奪ってしまいました。そこにあつたのは、子供らしい無邪気な生活ではなく、幼いながら自分で生活をきりもりしていかなければならぬ自分の姿でした。またそこには幸福ではなく、怒りと恐れと罪悪感がありました。何でも打ち明けられる信頼関係ではなく、隠し事が生活を支配していました。教会から遠ざかることさえ何度かあつたのです。

でも私はなんとか切り抜けてきました。ほかの人もできます。みんなで助け合えば。本当にみんなで助け合えばと思います。

クリスマスのとき

アルコール中毒の父親を持つ人にとって、休日はつらいものです。家に招待してはどうでしょう。彼女の両親さえよければあなたの家族と一緒に過ごせるようにしてもよいでしょう。

それから誕生日は決して忘れないようにしましょう。

では何を

あなたの友人はあなたとは別世界に住んでいるようなものです。恐れが根を下ろし、何もかも複雑に入り乱れた世界です。自分が愛する人が苦痛の種になっているのですから。

あなたが彼女のことを本当に好きなら、それを示しましょう。でも決して「短期間の奉仕計画」のような形はとらないでください。2カ月ぐらい一生懸命にやって、あとは放りっぱなしではだめです。彼女はそれでなくても人を信頼しなくなっているのですから。

彼女の気持ちを尊重し、彼女が話したことはだれにも言わないようにしましょう。また、あなた自身が彼女の苦痛を消すことはできませんし、家庭を変えることもできません。

できるのは、思いやりを示すことです。理解し、受け入れ、助け、支え、励まし、愛することです。

そうです。天の御父の愛を感じさせることなのです。

□

時間は、その使い方も含めて、神から受け継いだ財産です。この遺産は実に大きいもので、私たちは親から受け継ぐ遺産と同じように、投資された資本だと考えるようにするべきでしょう。

すでにおわかりだと思いますが、時間の愚かな使い方には枚挙のいとまがありません。眠って浪費することも遊んで浪費することもできるからです。でも本当の問題は、このようにして時間を浪費したり、無分別にスリルを求めたりした後にやって来ます。

たとえば、品位を落とすようなことを見たり聞いたりしたとします。初めのうちは時間だけを浪費したように感じますが、そのままかまわずにいるとそれだけではすまされなくなります。つまり、自分の身をさらしてサタンが罪の方に私たちを引き寄せざるを許してしまい、ついには罪の中に入り込むのです。こうして私たちは浪費した時間よりもはるかに大きな負債を抱え込むことになります。その負債は、それからの人生の至る所で重荷となり、暗い影を落とすことになるのです。では、その重荷から救われる唯一の方法は何でしょう。そうです。時間をかけて努力を傾けることにより罪を悔い改め、イエス・キリストの贖い^{あがな}という治療薬を見いだすことです。

私はこれまでの生涯を通じて、十代のときに自分の身に起こったことの本当の意味を知ようになりました。ある日、ある場所へ行こうと急いでいたときのことで。私はひとつの声を心に感じました。耳で聞いたものではありません。神からの声だと私にはわかりました。それはこうでした。「いつか自分が何者なのかを本当に理解したとき、あなたは時間を賢明に使っていなかったことを悔やむだろう。」そのとき、私は別に何とも思いませんでした。自分では時間を上手に使っているつもりでしたし、自分が何者なのかも知っていると思っていたからです。しかし、それから長い年月を経た今、私は自分が何者なのか、また時間を上手に投資しないとなぜ悔やむことになるのかを、はっきりと理解し始めたのです。

主は私たちに時間という賜、すなわち遺産を与えてくださいました。主はそれを賢明に用いるように期待しておられます。それは、私たちの人生がこの世だけにとどまらず、永遠へと続くからです。私たちの心の中に与えられたこの時間という遺産を、賢明に使いたいとの望みが生まれればと願っています。□

*ユタ州プロボのブリガム・ヤング大学でのファイヤサイドより。

時間—神よりの遺産

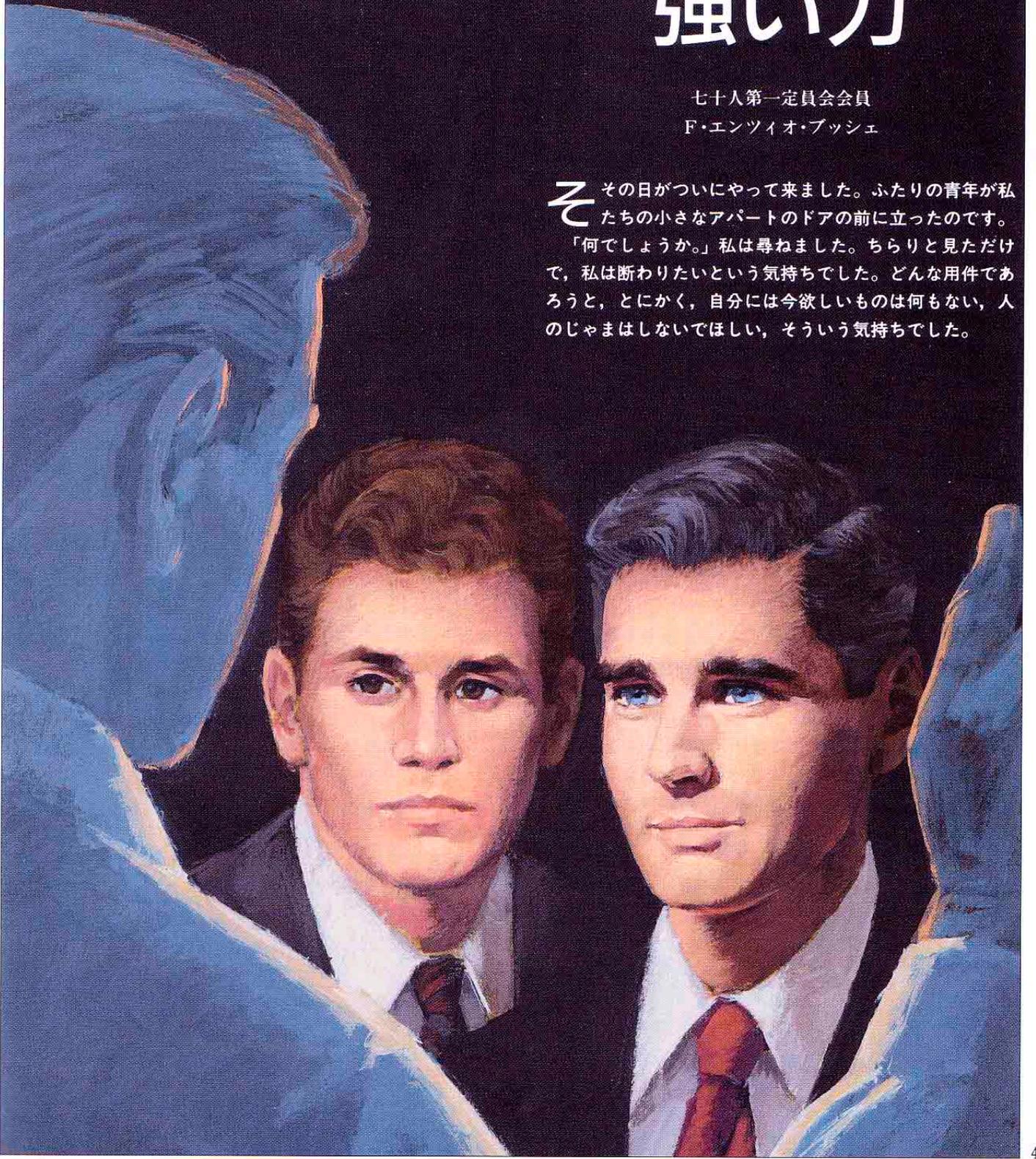
管理監督会第一副監督 ヘンリー・B・アイリング



強い力

七十人第一委員会会員
F・エンツィオ・ブッシュェ

そ その日がついにやって来ました。ふたりの青年が私たちの小さなアパートのドアの前に立ったのです。「何でしょうか。」私は尋ねました。ちらりと見ただけで、私は断わりたいという気持ちでした。どんな用件であろうと、とにかく、自分には今欲しいものは何もない、人のじゃまはしないでほしい、そういう気持ちでした。



Ted Hemminger

それから、もう一度彼らに目をやりました。すると、そういう考えは間違っているのではないかと思えてきました。ふたりはきちんとした身なりをしていました。別に高価なものを身につけているわけでもなく、小ざっぱりとしていました。また威厳と落ち着きをもったその瞳は輝いていました。身振りにも軽薄なところがなく謙虚さがにじみ出ていました。礼儀正しく、人の話をよく聞き、私のプライバシーも十分尊重してくれる人たちのように思えたのです。

ひとりがこう言いました。「あなたへの大切なメッセージを持って参りました。」

アパートのドアのところに入った最初の宣教師たちは、家をよく訪問して来るほかの人たちとは、まったく様子が違っていました。そうです。セールスマンのようではなかったのです。人とは違う何か輝く力強いものを持っていました。今思うと、それはみたまだったのでしょうか。私はふたりを追い返すことができなくなりました。

このときから自分の人生が変わるなどとは夢にも思いませんでした。しかしこのときもうすでに、主の教会の会員になる道の第一歩を踏み出していたのです。

人を改宗させるもの、つまり人生航路を変えさせて人をキリストのみもとに導くものは何でしょうか。神の言葉の力強いメッセージでしょうか。それとも、人に話しかける時の方法でしょうか。服装や髪の毛の長さや身だしなみなどでしょうか。

みたまの強い力によらなければ人を改宗させることはできません。このみたまの力によって授けられる証は、人が得られる賜の中で最も貴重なものの中に数えられます。でも、多くの、特に若い会員は、それよりもさらに特別な賜についてあまりよく知りません。それは私たちが教会員として確認の儀式を受けるときに天の御父から受けるものです。主と交わす誓約の一部として、私たちは聖霊の賜、すなわち、神会の御一方を常に伴侶とする権利を授かります。この賜は非常に大切です。自分の救いのみならず、人類全体の救いにもかかわってくるからです。いかなる教会員も、このみたまの力を常に心に感じなければなりません。また常にみたまの導きに従って、日々の生活を送る必要があります。

主は教会員一人一人に賜を与えられ、人生の重荷や問題を克服して幸福な生活を送ることができるようにしてくださいました。この天の御父からの特別な賜をどのように伸ばし、活用することができるかを、皆さんに提案したいと思います。

末日聖徒であるなしを問わずすべての人々は、正義の原則に従って生活すれば、特定の状況のもとでみたまを感じられるようになります。このことについてとても大切なことが聖典に出ています。「『みたま』は世に来るあらゆる人々に光を与え、また『みたま』はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照すなり。」(教義と聖約84:46) ここで言われている「みたま」はキリストの光であって、この光によって私たちは天の御父のすべての子供を助け、救いを与える神聖なバプテスマの誓約へと彼らを導くことができます。

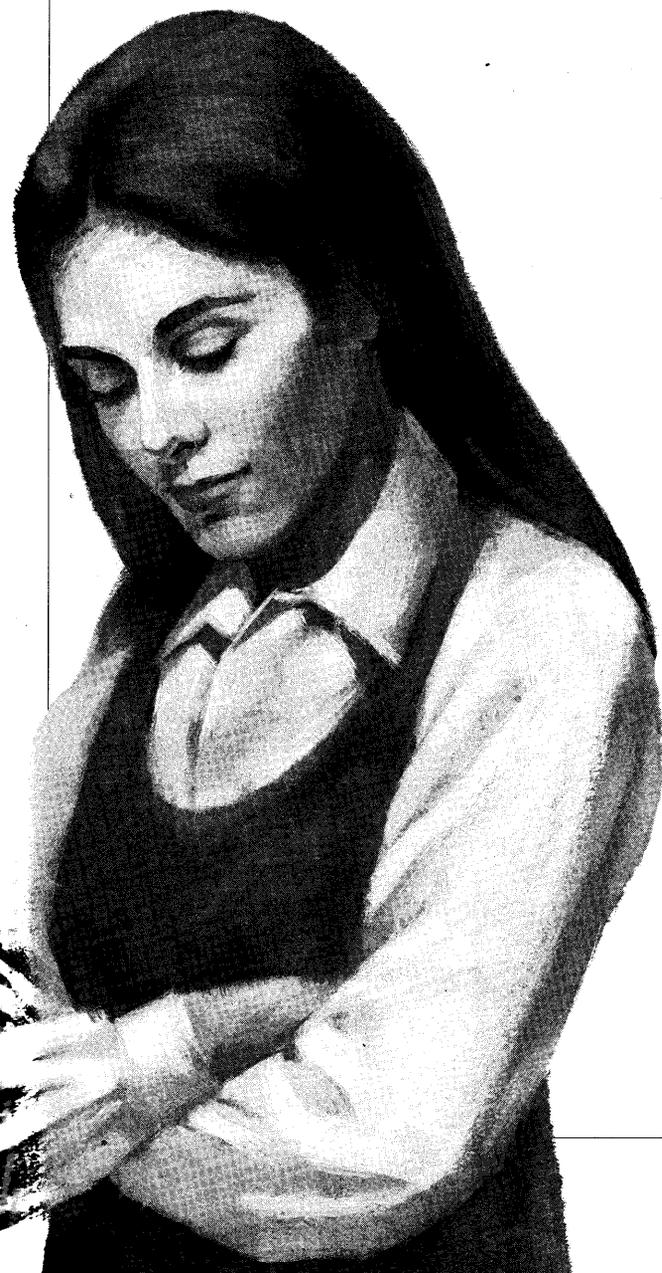
聖霊の賜はバプテスマのすぐ後に授けられます。熱心に努力して福音の原則に従えば、私たちはみたまによって強められ、実り多い人生を送れるようになります。それは主の約束です。しかし、感謝の気持ちでこの賜をよく磨き、活用しなければ、物事がうまく進まず、進歩が妨げられることでしょう。証を失うこともありますし、義なる喜びを得る機会も失ってしまいます。

若人の皆さんにこう尋ねたいと思います。皆さんが最後にみたまの力を感じたのはいつだったのでしょうか。ホームティーチングのときですか。ユースカンファレンスのときですか。それともこの前の断食証会のときだったのでしょうか。主のみたまを時折受けるということはすばらしいことですが、みたまの導きはいつでも受けられるのだということを中心に留めておかななくてはなりません。

主は予言者を通して、みたまを伴侶とするために何をしなければならぬかを教えてくださいました。「この『みたま』は、信仰の祈りによりて汝らに与えらる。」(教義と聖約42:14) この信仰の祈りは、突然の悲しみに見舞われた人にとってたやすく理解できるものです。でも、もし私たちが苦しいときにしか祈らないとしたら、それは主に対して無礼なことではないでしょうか。主は私たちが常にみたまを必要としないのはなぜか不思議に思われることでしょう。もう手遅れのときとか、大きな苦痛や損失に見舞わ

れてからでない^らと私たちが心から祈ることをしないとしたら、主は理解に苦しまれるのではないのでしょうか。

私たちは物事がうまく運んでいるときは、自分の力だけで物事に対処できると思いがちです。主が私たちを愛して下さり、進んで2マイル行く精神で助けてくださっていることを、なぜ緊急の状態が起きないと悟らないのでしょうか。何事もないうちに神の愛を悟ることほど偉大な知恵はないのです。私たちは主がどんなに私たちを愛しておられるか、また私たちをどんなに心にかけておられるかを知って驚くことでしょう。主は私たちが成長して立派な人間となり、義なる目標を達成することを求めておられるのです。



主はみたまの働きを通して、私たちに最も強力な助けをくださっています。主のみこころにかなった望みを達成する道具を与えてくださったのです。ただしそれには条件があって、私たちがそれをよく理解し、使い方を知らなければなりません。この賜の助けを借りれば、日常の出来事^にどう対処するかがわかりますし、また主のみこころにかなった望みを高める方法や恐れをなくする方法、誘惑に打ち勝つ方法や最も困難で複雑な問題^をを首尾よく解決する方法を学ぶことができるのです。またこの賜の助けにより、すべての会員は、主を受け入れる人々に主が与えたいと望んでおられる独特の力を経験できるようになるでしょう。「われはわが民に來れるに、わが民われを受けざりき。されどわれを受け入れたる者には皆多くの奇蹟^をを行う能力^をを与え、また神の子となる能力^をを与えたり。誠にわが名を信ずる者には永遠の生命を得る能力^をを与えたり。」(教義と聖約45:8)

みたまの促しに従うと、私たちの心には奇跡的な変化が訪れます。全身を包んでいた黒雲から解き放たれたような気持ちです。光と自信と喜びがよみがえり、かすかな、ときにはあまり気の進まない導きの声にさえも耳を傾けることができるようになるのです。そのようにして主は私たちにさらに高めるとともに、主から私たちに隔てている障害を取り除いてくださるのです。そうすれば、私たちはどのような状況のもとでも天の御父が聖霊を通してお授けくださる慈しみに満ちた賜について深く理解し、感謝の気持ちを示すことができるようになるでしょう。

このみたまの賜を育てる機会を、伝道しているときや、ホームティーチングや家庭訪問をしているとき、そのほかみたまを特に必要としているときに制限してしまうとしたら、なんと悲しむべきことであり、またなんと大きな損失でしようか。

今から30年ほど前、私は訪問してきた宣教師から権威と権能が輝き出るのを感じました。教会の若い兄弟姉妹と会うとき、私は心が高まるのを覚えます。それは、皆さんの多くがこの天の御父からの賜を受けて、問題の多い今日の世の中でしっかりと歩んでいるからです。これからもみたまを伴侶とできるような生活をすることによってキリストを基とする生活が送れるように祈っています。□



私たちは
ノルウェー特有の
この厳しい天候の中で
再び外に出て行く力を
主に願ひ求めました。

「安心せよ」

ジーナ・パーキンソン・ベアード

宣教師に召されて8カ月目の私は、厳冬の中、ノルウェーのベルゲン地方部のアサナという所で伝道していました。長時間戸別訪問をしても家庭集会はほとんどなく、バプテスマはもう奇跡としか思えないような状態でした。

ベルゲンは、ノルウェーの西海岸にある7つの山に囲まれた町です。その山々は海岸線添いに吹きすさぶ嵐をことごとく抱き込み、生じた雲は宣教師であるなしを問わず人人に滝のような雨を浴びせます。その雨は強い風で横なぐりの雨となり、かさは盾のように横に寝かせて使わなければなりません。ぬれたレインコートやブーツが一晩で乾いて次の日に着られれば、それこそ幸運というものでした。

その日は風も雨もいつもより激しく、同僚であるドリンスキー姉妹と私は、こんなひどい天気のために伝道に出るのはどうしたものかと話し合っていました。私たちは、外に出ないと決まって暗い気持ちになることは重々知っていました。でも風雨があまりにも激しいので、私たちは、アパートで記録の遅れを取り戻すことにしました。

夕方になっても嵐は治まりそうにありません。間もなく5時30分、夕方の戸別訪問に出かける時間です。アパートの窓から見えるフィヨルドは、至る所に白波が立ち、風は吹きすさび、その風に向かって雨が激しくたたきつけています。もう外に出るのは無理でした。そこで私たちはひざまずき、もし外に出る必要があれば出られるだけの力をお与えくださいと主に祈りました。祈り終わるとドリンスキー姉妹が、アルマ17章を読むように主が望んでおられると言いました。私たちはテーブルに戻って、アルマとモーサヤの4人の息子たちについてのくだりを読み始めました。5節にはこうあります。

「さてモーサヤの息子たちが旅をしていた間の事情はと言うと、かれらは多くの艱難に逢って肉体上にも精神上にも大いに悩む苦しみ、ある時は飢えある時は渴きある時は疲れて精神上的苦勞も少くなかった。」(アルマ17:5)

嵐が治まったような気がしました。また、アルマ書の中の宣教師の苦しみに比べれば、嵐など何でもないと思えてきました。そして10節から12節までを読んだとき、私たちの小さな部屋はみたまに満たされたのです。

「それで主は『みたま』をかれらに与え、安心せよと言いたもうたのでかれらはそれで心が安らかになった。それから主はまた『汝らの兄弟なるレーマン人の所へ行きわが道を宣べてこれを確立せよ。汝らはわれに由りてかれらに模範をあらわすよう忍耐強く勸忍をし、また艱難に堪えよ。さらば汝らをわが手に使い多くの人を救わん』と言いたもうた。」(同10-12節)

聖句を読んだ私たちは、主がすでに嵐の中を戸別訪問に行かなければならない私たちの苦しみを、ご存じであるということを知りました。でも同時に、たとえ苦しくても私たちが仕えるように召された人々のもとへ神のみ言葉を携えていくことが主のみこころである、ということを感じました。アルマやモーサヤの息子たちに比べれば、私たちの苦しみなどもの数ではなかったからです。

私たちはコートをはおると、戸別訪問をする場所へ向かうバスに乗りました。そして最初の家でドアを開けてもらえたのです。北海油田で働いている若い男性の人でした。彼が言うには、ふだんは家にいないのだけれど、嵐で仕事にならないので家にいたとのことでした。私たちは彼にモルモン経について教えました。彼は、読みたいと言ってくれました。私たちはモルモン経を1冊手渡すと、晴ればれとした気持ちで家路につきました。

主がこの一介の宣教師の小さな苦しみをも心にかけ、みたまによる慰めをを与えてくださったこと、そして主のみ業を進めるために同僚にあの聖句を読むように靈感を与えられたこと、この経験は伝道中私の心を決して離れることはありませんでした。これからも生涯を通じて私の胸にとどまるでしょう。□

HAPPY BIRTHDAY

ベンソン大管長 90歳の誕生日を 迎える

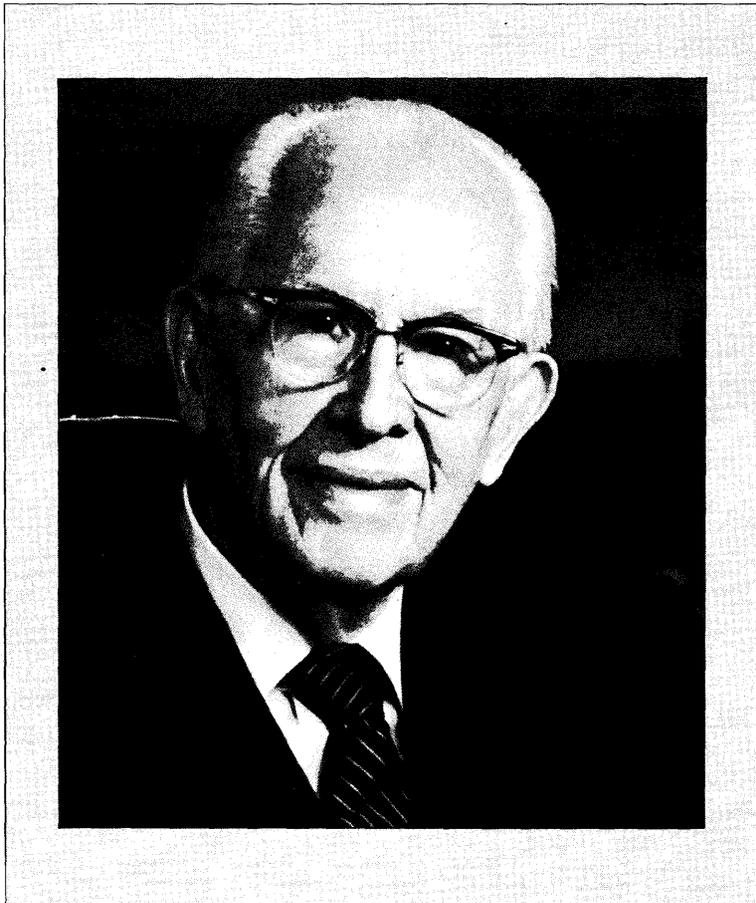
工ズラ・タフト・ベンソン大管長は世界中の教会員の祝福を受けて、去る8月4日金曜日に90歳の誕生日を迎えた。7月30日の日曜日にはこれを祝して、テンブルスクウェアのタバナクルで特別記念集会が開かれた。

ベンソン大管長は、42年間使徒職を務めた後、1985年11月10日、教会の第13代大管長として聖任された。就任後、ベンソン大管長はモルモン経の重要性を強調し、モルモン経で全世界を洪水のように満たし、生活の中にモルモン経を浸透させるよう、教会員に呼びかけた。また、「キリストのみもとに来る」というテーマに焦点を合わせて、伝道活動や神殿活動を強化し、家族のきずなを強めることに力を注いでいる。

ベンソン大管長は、1899年8月4日、アイダホ州ホイットニーで、ジョージ・T・ベンソン、サラ・ダンクリー・ベンソン夫妻の間に、11人兄弟の長男として生まれた。11人全員が専任宣教師として伝道に出

た経験を持つ。ベンソン大管長は1921年から1923年までイギリスで伝道し、後に1963年から1968年までヨーロッパ伝道部の伝道部長を務めた。1968年から1971年まではアジア地域の伝道部を管理している。1973

年に故スペンサー・W・キンボール大管長が教会の大管長に就任すると、ベンソン大管長は十二使徒評議員会会長となった。12年後、キンボール大管長の逝去に伴って、教会の大管長になった。



地域会長会から

メッセージ

家庭の夕べ—— 大切なひと時

アジア地域会長会第二副会長
ロイデン・G・デリック

主は両親に次のように命じておられます。「両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むことを教えるべからず。」(教義と聖約68:28) また、こ

のように述べておられます。「シオン……にて子供を有する両親あらば、その子供八才の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし。」(教義と聖約68:25)

子供を教えるのに最も良い時間は、家庭の夕べのひと時です。しかし家庭の夕べを開こうとしても、子供たちの非協力的な態度に困っている家族は少なくないでしょう。多かれ少なかれ、ほとんどの家族はこのような問題を抱えています。それでも両親が忍耐を持って熱心に家庭の夕べを続けていくなら、豊かな実りを刈り取ることができ

ます。そのために何年かかったとしても、結果は努力に十分値するものです。周到に準備し、怠らずに毎週家庭の夕べを開いてください。そうすれば、次第に秩序ある家庭生活を築き、家族が互いに愛と感謝を示し合えるようになるでしょう。

家庭の夕べは、子供たちも参加できるようなものにすべきです。子供がふざけるのは、認められたいという欲求があるからにほかなりません。自分の気持ちを述べ、才能を発揮する機会があることがよくわかれば、好ましくない行動は減るはずで、子供はたとえ気持ちが集中していないように見えても、大人が考える以上によく聞いて

いますし、吸収しているものです。こうして徐々に家庭の中に平安が広がり、従順がもたらす祝福に満ちあふれることでしょう。

教会で発行されている家庭の夕べのテキストには、子供たちの興味を引きつける、いろいろな提案が載っています。何年前かに私が家庭の夕べの準備をしたときのことです。ある原則を説明するのに、靴を使って白い紙を足跡の形に切り抜き、家の中の様々な所から家庭の夕べが開かれる部屋に向かってその足跡を置いておくという提案がありました。私にはこの方法が幼稚であり、大いした意味がないように思えました。ところがそのとおりやってみると、意外にも家族の関心を高めるのに効果的で、レッスンもとてもスムーズにすることができました。

またある家庭の夕べで、「あなたの隣人を愛しなさい」という原則を教えようとしたときのことです。私は子供たちに実際に隣人に愛を示す経験をさせたいと思いました。みんなでこの原則について話し合い、そして家族の祈りを捧げました。するとちょうど祈りが終わろうとしたときに、裏口のベルが鳴りました。私は息子のデビッドに行き見てくるように頼みました。5分ほどすると、息子は5ドル札を手にして戻ってきたのです。当時としては、それは今の何倍にも相当する額でした。

「そのお金はどうしたんだい。」私は尋ねました。

するとデビッドはこう答えました。「シャープ先生が、来週、家族でコロラドのアспенに行くんだって。それで留守中、芝生の世話をするように頼まれたんだ。5ドルもらったけど、帰ってきたら残りの分も払ってくれるって。」

ふと私は、これは子供たちを教えるよい機会だと思い、こう言いました。「デビッド、ひとつ試してみないか。」

息子はいぶかしそうな目をして言いました。「どういふこと？」

「シャープ先生に5ドルを返して、私たちがシャープ先生の家族をどんなに愛しているかをわかっていただきたいって言うんだよ。」

うれしいことに息子はこの提案に賛成し、



シャープ兄弟も私たちの意図を理解して、デビッドにお金を受け取るよう無理には勧めませんでした。

翌日私が仕事から帰ると、デビッドはシャープ家の家の前に立って、これから取りかかる仕事の下調べをしていました。シャープ家の前には広い庭があり、裏にはさらに広い庭がありました。シャープ兄弟は多忙な産科医で、庭を見るとどんなに忙しかがよくわかります。ユタでは、夏の間、毎日水をやらないと芝生はすぐに枯れてしまいます。シャープ家の芝生には、すでに茶色になっている部分があちこちにあって、全体的に茶色がかって見えました。

私はデビッドにこう言いました。「これは私たちがシャープ家族を心から愛しているのを示すよい機会だね。芝生にたっぷり水をやっついてくれないか。そうしたら、次の土曜日にお父さんも芝生の手入れを手伝おう。」

了解したデビッドは、翌日から数日間、近所の人々からこれでは芝生が水浸しだと言われるほど水をやり続けました。芝生はすぐに青々としてきました。その週の土曜日、私が昼過ぎに仕事から帰ってみると、デビッドはもう芝刈り機で芝を刈ってしま

した。私が芝生の端を刈りそろえると、彼は芝刈り機をかけ終わりました。仕事を終えると、ふたりは道路の反対側に立って仕上がり具合を満足気に眺めました。シャープ家がこんなに美しく見えたのは初めてでした。

翌日の日曜日、私たちはもう1度家庭の夕べを開きました。今週のテーマは「感謝」でした。話し合いの中で私はデビッドにこう尋ねました。「先週シャープ家の芝生の世話をしたのは、楽しかったかい。」

「うん、とっても。」デビッドが答えました。

「それじゃ、もし楽しくなかったとしたら、それはどんな場合かな」と私が尋ねました。

デビッドは質問の意図を理解して、こう答えました。「シャープ先生がほくにお礼を言ってくれないとき。」

私たちは各自の気持ちを話し合っているうちに、隣人に対する愛の気持ちが、先週を境にこれまで以上に深まったことに気づきました。今でも私たちはこの家族を、まるで自分の家族のように愛しています。これもみな、家庭の夕べという大切なひと時のおかげだと感謝しています。

八戸支部紹介

心を一いつにして

支部長
木村秋夫

ウ ミネコ舞う海岸、潮の香り。青森県の南東部にある八戸は、古くから水産都市として栄え、近年は新産業都市としても急速な発展を見せてきました。また、民謡や郷土芸能の宝庫でもあります。特に800年の歴史を持つ「えんぶり」祭では、豊作祈願の素朴な踊りを披露します。

この地に宣教師が訪れてから早20年。5年前に教会堂が建てられました。そして八戸は今まさに伝道の町として成長しています。

昨年は52名の新会員を迎え、聖餐会の出席者も100名を超えるようになりました。また昨年10月の青森地方部大会では、一挙に14名のメルケゼデク神権者が誕生しました。このような刈り入れができたのも、優れた宣教師たちの働きと、指導者、兄弟姉妹のこれまでの献身的な奉仕による賜です。

今年は6月ですでに50名弱の人がバプテスマを受け、さらに祝福をいただいております。宣教師たちが、会員とのジョイントレッスンや中・高校生とのスプリット伝道を通じて一生懸命に働く姿には、心打たれるものがあります。それにこたえて、バプテスマ以前からホームティーチャーや新会員のためのABレッスンの教師を割り当てるなど、会員によるフェローシップもかなり

手際よく行なわれるようになりました。

また、第一日曜日に宣教師に日ごろの感謝を込めて贈るフルーツバスケットでは、5組（長老4組、姉妹1組）いる宣教師たちにみかん箱5箱、あふれるほどの食物や日用品が、毎回用意されています。

宣教師と会員が一致するならば伝道の奇跡が起こることを実感しています。

今後とも、岩の土台（マタイ7：24-27参照）をしっかり据えて、昨年同様、会員伝道に燃えたいと願っています。（きむら・あきお 1959年生まれ）

心から素直になった時

岩谷真子

高 校2年生のときでした。友達ふたりと共に宣教師のレッスンを受けていました。教会に行くのが楽しくて、いつも心をわくわくさせながら通っていました。しかし、家族から教会員になることを反対された私には、それを押しきってバプテスマを受ける勇気はありませんでした。家族から離れた存在になるようで怖かったので

す。私の心はだんだんと教会から離れていきました。対照的に、友達ふたりはその後教会員となりました。

それから7年後のある日、突然宣教師から電話をいただき、1度だけレッスンを受けることになりました。でも私はかたくなな心で、断わることしか考えていませんでした。

ところがどういうわけか、レッスン中もレッスンを終えた後も、鳥肌が立ち、胸が苦しくなるような強い思いを感じました。

私は7年前にいただいたモルモン経を探そうと決心しました。高校時代の本はすべて、小屋の中の重なり合うダンボール箱の中に片づけられていました。私は必ず探さなければという思いで、「モルモン経が真実ならば、どうか私の手元に戻してください」と祈りながら探しました。すると思ったより容易に探し出すことができました。モルモン経を手にしたとき、なつかしきとうれしさと胸がいっぱいになり、心から感謝しました。

しかし、心はまだかたくなでした。信じたいという思いがあるのに、バプテスマを



受ける勇気がないのです。何度も教会に行くのをやめようと思いましたが、最初のレッスンで受けた強い思いを否定することができず、いつしか「自分自身の心に素直にならせてください。すべてを受け入れる勇気を与えてください」と祈っていました。

そんなとき、アルマ書32章の聖句に目が留まりました。「信仰と言うことは、完全に物事を知ることではない。……しかし、あなたたちが……その能力をつくして少しなりとも信じながら私の言葉を実際にためしてみるならば、たとえ信じようとする望みを起すだけでもよい。しかし、私の言葉の一部分でも受け入れるほどの信仰ができるようになるまで、この望みを育ててゆけ。」

(アルマ32：26-27) こんな私でも信仰が芽生え始めていることを、この聖句は教えてくれました。7年前にいただいた真理の種子を完全に否定することができず、ずっと心の奥底にしまい込んでいることに気づいたのです。天のお父様は、真理を受け入れ、種子を養い育てていくための勇気を私に与えてくださいました。心から素直になれたとき、天のお父様の愛を感じる事ができました。そして宣教師と友達に励まされながら、バプテスマを受けることができました。

初めてモルモン経を手にした日から7年、ようやく真理の種子を心の中にまくことができました。かつて共にレッスンを受けたふたりの姉妹と、遅ればせながらも、永遠への道を並んで歩めることを感謝しています。いつの日か、家族もこの道を共に歩める日が来ることを信じて、着実に一步一步努力していきたいと思えます。(いわや・まさこ 1964年生まれ、YSA扶助協会代表)



弱きを強きに

下野要助

「人前に出なくてもよい責任はないでしょうか。」これは、バプテスマ後の支部長さんとの面接で、私が真剣に尋ねた質問でした。当時私には、人前で思うように話すことができないという決定的な弱点があったからです。

高校1年のときにクラスメイトから、「お前のその声は何だ。どうにかならないのか」と言われたのがきっかけでした。それまで、どのようなときも明るく振る舞っていた私でしたが、次第に人前では消極的になっていきました。もし神様が生きていらっしゃるのならいつかは必ず直して下さる、そうでなければ不公平だ、いつも思っていました。

社会人になってからその状態はますますひどくなり、極度の緊張からくる震えは、いつも皆から不思議そうに思われました。相手を見て話すことのできないつらさは、あがるとか赤面するということの比ではありませんでした。

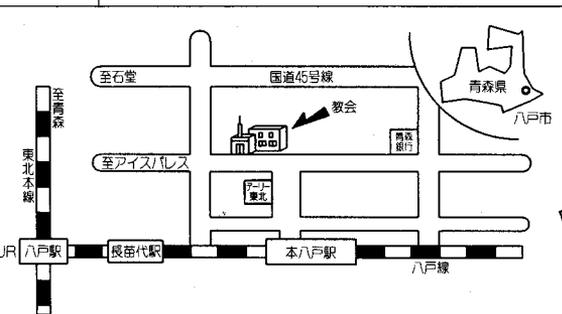
そんな中で、昭和61年にこの教会の宣教師にめぐり会い、証を得て、3カ月後にバプテスマを受けました。しかし、教会ではだれにでも責任が与えられることを知り、不安が募りました。私の質問に支部長さんは、「何も心配いりません。与えられた責任を恐れることなく、神様を信じて頑張っ

てください」とやさしく答えてくれました。私は、自分で選んだ道だから頑張らなくて、と決意を新たにしました。

初めての責任である祭司としてのバプテスマの儀式、またパンと水の祝福を、震えながらも精一杯果たしました。神権会の教師、活動委員の代表や独身成人の代表として自分なりに努力を続けているうちに、無我夢中の1年が過ぎました。

そうして、いつか気づかないうちに、震えは止まっていました。神様は素晴らしい贈り物をくださったのです。人前で何ひとつ言うことのできなかつた目立たない一会員が、いろいろな責任を通して大きく変わったのです。バプテスマの後の1、2分の証が言えないと宣教師に泣きついていた私でしたが、今では逆にお話することに喜びを感じるようになりました。昭和62年には、支部大会で多くの指導者の前でお話をする責任をいただきました。63年には前期と後期の地方部大会で、続けてお話をする特権に恵まれました。

弱点であったゆえに、話すことのできる喜び、聞くことのできる喜びを人一倍味わえるようになりました。私はもう人前に出ることを恐れなくなりました。「われは人を謙遜にするために人に弱点を与うれど、……その弱きを強きに変えん。」(イテル12：27)この聖句を胸に、さらに謙遜になって主の道を歩んでいきたいと思えます。(しも・ようすけ 1950年生まれ、幹部書記)



八戸支部 青森県八戸市城下4-1-40
TEL 0178-43-8435



ウィーン国立フォルクス・オーパー

オペラ歌手 ヴィンセント兄弟来日

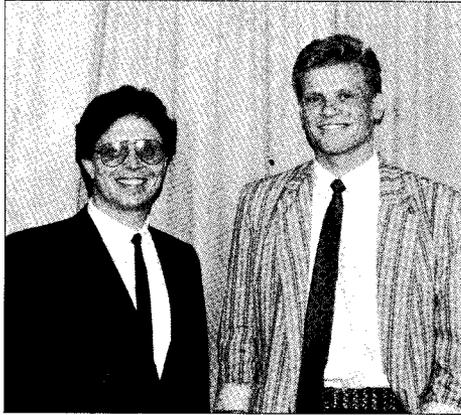
6月、ウィーン国立フォルクス・オーパー歌劇団の来日公演に伴って、ウィーン国際支部の支部長である、テナーソリストのローレンス・ヴィンセント兄弟が来日されました。以下は6月10日(土)ヴィンセント兄弟を迎えて行なわれた東京東ステキ部主催のファイヤサイドでのインタビューです。

ローレンス・ヴィンセント(40歳)。1948年12月11日ユタ州オグデンに生まれる。コロラド州デナバーで育ち、1966年から1973年まで、ブリガム・ヤング大学で音楽を学ぶ。途中1968年から1971年までオランダで伝道。卒業後ネバダ州の学校で5年間音楽教師として勤務。その間に北アリゾナ大学で修士課程を修め、かたわら演奏家としての活動も始める。後プロに転向現在に至る。

「ネバダで仕事のほかに演奏家としての活動も始め、プロとしての勧めを受けていたこと。ある晩、仕事を終えて家に帰ってみると、妻は私が歌っている曲を聞きながら涙を流していました。『どうしたの?』聞くと、『この町を離れてミシガンへ行くのね』と言うのです。その意味は今の仕事をやめてプロの演奏家になるためミシガン州に行くという意味ですが、私はびっくりしました。なぜなら、そんなことは考えていませんでしたから。」

それが彼自身、自分の進路について祈り、証を得るきっかけとなったとのことである。「それまでの仕事をやめてプロになるかどうか、聖徒として歌手としての生活をうまく送れるかどうかについて、祈り、考えていたある夏の日、『エンサイン』に掲載されたキンボール大管長の『福音と芸術』(『聖徒の道』1978年4月号、p.1)の記事を読みました。そのときこれが祈りの答えだとわかりました。」

それからヴィンセント兄弟は、5年間住



●ヴィンセント兄弟(左)とスコーフスさん

んだネバダ州を離れ、ミシガン州に移りそこでプロとしての勉強をし、ミシガン大学で音楽の博士号を取得。その後いくつかのオペラ・カンパニーとの契約もあり、現在に至る。

ヴィンセント兄弟は教会員の家庭に生まれ育った。現在は支部長の責任にあり、祈り、集会への出席、聖典を読む、知恵の言葉を守る、什分の一と他の戒めを守る、の5つの点を強調している。

「これらのことを進めていくうえで、主への証がさらに強くなりました。特に什分の一の大切さは、支部長として会員を指導してよくわかりました」とヴィンセント兄弟は語る。

家庭にあっては3人の息子を持つよき父親である。彼にはもうひとり、一番下に女の子が生まれたが、生後1年ほどで他界した。ヴィンセント兄弟は彼女の思い出を次のように語っている。

「サラ・マリアは700グラムの未熟児で生まれました。医者には数時間しかもたないだろうと言われましたが、元気になるようにすぐ神権の祝福をしました。そして6か月後に退院しました。」

入院している間、仕事のあとでいつも病院に寄ってから家に帰っていた。その年のクリスマスのある夜のことである。「その日は忙しくて病院には寄らずに家に帰りました。11時半ごろ、やはり寝る前に子供に会おうと思い病院に行きました。そして保育器の中にいる彼女の手を取り、『聖し、この夜』を歌ったんです。翌年11月に彼女は

亡くなりました。それから毎年どこに行ってもクリスマスにはだれもいない所に行って、娘のために『聖し、この夜』を歌うことにしているんです。」

今回のファイヤサイドでは特別にバリトン歌手のボーイェ・スコーフスさんとデュエットすることになった。「以前、彼の歌を聴いたとき、ぜひ一度一緒に歌いたと思っていました」とヴィンセント兄弟。普通はこのような場でプロが歌うことはありえないことなので、来てくれるかどうか心配していたとのこと。「きょう、よければ一緒に教会で歌いたいのですが」と誘ったら、「ええ、いいですよ」とすぐ了解してくれたということである。後で聞いたら、スコーフスさんが歌ってみたかった曲の楽譜をヴィンセント兄弟が持っていたとのことだった。

これからのヴィンセント兄弟の一層の活躍を心から期待している。(編集室)

音楽ファイヤサイド

心を揺さぶる歌声

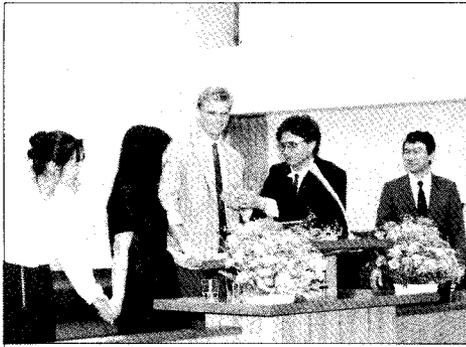
東京東ステキ部

中村信行

ヨーロッパ地域会長とアジア地域会長から岡本亮地区代表に、オペラ歌手のローレンス・ヴィンセント兄弟が来日しているの、この機会を利用してどうかとの連絡が入ったのが6月3日。

1週間後の6月10日に急きょ設定したファイヤサイドのために、翌日から準備に入りました。伴奏をすることになった石井由美姉妹との2回のリハーサルを含めて、この種の催しとしては驚異的とも言える時間内にすべての準備を終え、当日の夜を迎えました。

岡本、浅間両地区代表の熱心な呼びかけにこたえて、地区の指導者の方々がよく働きかけてくださり、PRの時間が十分になかったにもかかわらず、約270名がステキ部センターの礼拝堂をいっぱい埋めました。このうち約2割ほどが教会員の友人や知人、また求道者で占められ、良質の音楽への関心の高さが感じられました。



まず岡本長老がヴィンセント兄弟と一緒に出席して下さった同僚のスコープスさんを紹介し、続いて、ヴィンセント兄弟が自己紹介をしました。

次に演奏に入り、日本の歌やピアノソロを間にはさみながら、アンコール曲も含めてヴィンセント兄弟のソロが7曲、スコープスさんのソロが1曲、ふたりのデュエットが2曲歌われました。

各曲の演奏の前にはヴィンセント兄弟の適切な曲の解説と力強い証とが述べられ、音楽の余韻と混然となつて、華やかでかつ霊的な雰囲気が会堂を満たしていました。すべてを歌い終わった後、興奮もさめやらぬうちに行なったサイン会では、ほぼ全員の方が列を作り、ステーキの伝道部長会の用意したパンフレットを手におふたりと握手を交わしました。

ヴィンセント兄弟は、ヨーロッパの一流の歌劇場で活躍する歌手であり、またウィーン国際支部の支部長の職も務めておられます。しかし、その飾らない人柄は、初めてのにぎり寿司をおいしいとひとつ残さず食べたり、日本語を楽しそうに覚えようとするなどによく表われていました。兄弟の人柄と歌を通して、私たち末日聖徒が世にあって芸術の分野で果たすべき役割を実感し、また大きな感動をもって音楽の喜びを分かち合うことができたことを心から感謝しています。(レポーター：なかむら・のぶゆき 東京東ステーキ部音楽委員長)



●サイン会

音楽伝道

伝道コンサート

山形ワード部

山田 正

今年の2月に、伝道主任の責任をいただき、さっそく、会員がより効果的に伝道に参加できる方法をいろいろ考えてみました。その結果、伝道中に経験したことをヒントにコンサートを開いたらどうかということになりました。

まず歌の才能を持った何人かの姉妹たちに企画を説明し、グループとして集ってもらうことになりました。またグループ名もたくさんの候補の中から「ホワイトエンジェルズ」と決まりました。山形大学音楽科の佐々木良子姉妹に、選曲、台本作りをお願いし、またリーダーもしていただきました。

一方で、教会員一人一人に、このプログラムの趣旨を伝え、お友達を招待すること、また、コンサートに来る人にプレゼントするモルモン経寄贈プログラムへの参加などをお願いしました。その結果、72冊ものモルモン経が集まりました。また、衣装は扶助協会の方々が作っていただきました。そのほかにもポスターや垂れ幕など、たくさんの人が直接または間接的に参加することができるように準備しました。

このようにしてコンサートは会員一人一人の協力のもとに、4月29日と5月6日の2回行なわれました。

1回目は14名の求道者と20名のお友達を含めて60人ほどが集まりました。2回目は90名弱の方々が来てくださり、前回と同じくらい求道者とお友達の方々も来ていただきました。

コンサートに来た求道者の中で、その月のうちに6名の方々がバプテスマを受けました。またコンサートには、お休みしていた会員も何人が来ていただきました。その中のふたりの方は2回目のときにはお友達も連れて来られ、次の日の証会で証された方もいました。

このコンサートを通して、私たちは、伝道の喜びを分かち合うことができ、証を増

し加えることができました。私たちが一致して一生懸命頑張るときに、神様は私たちに必要な助けを確かに与えてくださり、人々の心を和らげてくださいます。(やまだ・ただし 1960年生まれ、山形ワード部伝道主任)

ホワイトエンジェルズ

「また会えるね」

山形ワード部

佐々木良子

「ホワイトエンジェルズ」というのは、5人の姉妹で構成されたコーラスグループで、伝道活動の一環として教会の音楽を用いてコンサートの開催が計画されたために結成されたものです。

リーダーとして要請を受けていた私は、若い女性でよく歌われている「心の歌」の中から選曲しました。どれを歌おうかと一つ一つの歌の歌詞を読んでいくうちに、ふと私の心の中にひとつのストーリーが浮かんできました。それは教会でよく使われている教材のひとつである「すばらしい旅」のストーリーでした。ミュージカルというには程遠いのですが、私はまる2日費やして「心の歌」から21曲を抜粋し、ひとつの劇の台本を作りました。

前世で幸せに暮らしていた4人の姉妹が、現世においてふたりが宣教師、ひとり教会員、もうひとは未亡人として再会します。未亡人が神様の導きを受けて心に平安を得、そして教会に足を運ぶようになるまでの話を、教会員役の姉妹が観客に語りかけるのです。また、先に抜粋した21曲を5人の登場人物に割り当て全体の流れの中から、「自分は何者なのか」「どこから来たのか」「なぜここにいるのか」「死んだあとどこに行くのか」といった疑問の答えを、観客が見いだせるように心がけました。

5人のうち、ひとは主婦、ふたりは社会人、ひとは伝道に出るための準備を進めており、学生は私ひとりでした。

毎日夕方6時ごろから8時ごろまで練習をするのですが、なかなか思うようにはかどらず、「本当に大丈夫なんだろうか」とい



●前列中央佐々木姉妹、右はじ本宿姉妹

う不安が日に日に増してきました。本番3日前まで台本のチェックが繰り返され、セリフの暗唱や歌の暗譜も決して十分とはいえない状態でした。

5人の中で、最も毅然としていなければならないはずの私自身が、失敗を恐れ、あせりを覚え、ただただ天父に助けを求めることしかできませんでした。また、私よりも忙しいはずのほかの4人の姉妹に、逆に励まされるといった状態でした。

第1回目の開演30分前に、ホワイトエンジェルズ全員と私の友人でピアノ伴奏をして下さる本宿雅子さんの計6人は、ひとりずつ祈りを捧げた後、司会を務めてくださる古澤兄弟から神権の祝福をしていただきました。熱い思いが込みあげ、涙があふれてきました。このプログラムが神様から祝福されたものであることを確かに知ることができました。

最後に『見いだそうマイ・フレンド』を歌ったとき、私は覚えているはずのない前世から、たった今この世に来たばかりのような錯覚さえ感じました。コンサートは終始神様の愛で満たされていたのです。

このコンサートを通して約10名の方がバプテスマを受ける決心をされ、中でも伴奏をして下さった友人の本宿雅子姉妹をはじめ6名の方々がバプテスマの門をくぐられたことは、何にも代え難い喜びとなりました。

私たちは皆神様の子供です。いろいろな経験を通して、この教会が真実であることを確信し、その教えに従っていくならば、「また会えるね」(『また会えるね』の曲からの言葉どおり、私たちは天父のもとでふたたび会えるに違いないことを、心から証します。(ささきりょうこ 1967年生まれ、山形ワード部YSA扶助協会代表)

改宗談

「伴奏者がいないの…」

山形ワード部

本宿雅子

「ねえ、今度の土曜日に音楽の夕べで歌の伴奏してくれない。」これがすべての始まりでした。その日、佐々木姉妹と私、そして同じ大学の研究室の友人3人で、誕生パーティーをしていました。私は土曜日に教会へ行くと約束をしました。佐々木姉妹がキリスト教徒であることはすでに知っていたので、教会へ行くということについては、何のためらいもありませんでした。

当日、練習のために教会へ行くと彼女は「『心の歌』の伴奏者がいないの、突然だけお願いしていい?」と言いました。頼まれるといやと言えない私でした。その夜は楽しいひと時を過ごすことができました。そのとき、私はある姉妹から「ホワイトエンジェルズの伴奏をして下さるんですって」と言われ、きつときょうの「心の歌」の伴奏のことだろうと思いました。しかし、そうではなかったのです。

音楽の夕べが終わって、そのお礼にと、佐々木姉妹から食事に誘われました。食べ始めると彼女から「4月29日にホワイトエンジェルズというコンサートがあるんだけど来てくれない。伴奏してほしいの。……」と言われました。私は当然? いやと言えませんでした。

それから私は練習のために毎日教会へ通い、その間に多くの兄弟姉妹と知り合いになりました。初めは佐々木姉妹と共に教会へ行っていたのですが次第にひとりでも行くようになり、だんだんと楽しさを感じるようになりました。そして、それまでいらしたことがあると、たばこやお酒で気をまぎらしていたのが、教会に来ることで気持ちが落ち着くようになりました。

4月29日のコンサートが終わってからの帰り道、彼女の「5月6日のコンサート、だれに伴奏してもらおうかなあ」という言葉を聞いて、私は「私でもよければいいよ」と言いました。そして、また1週間、私は

教会通いが続きました。その間、次第に私は姉妹宣教師のレッスンを受けるようになりました。

そのころすでにバプテスマ会に出席したことのある私は、受けてみたいと思うようになりましたが、その思いはまだ弱いものでした。練習に通いながら、レッスンを受け、独身成人の活動に参加し、家庭の夕べや安息日の集会に集いました。

レッスンを受けていくうちに、私は救いの計画を聞き、家族と共に永遠に生活したい、柔和謙遜な心を持ちたい、今までの私と変わりたい、バプテスマを受けたいと強く思うようになりました。

多くの兄弟姉妹からの愛と励ましを受けて、5月28日、私はバプテスマを受けることができました。今はこの教会に入って本当によかったと思っています。教会員となって、私の心は平安に満たされるようになりました。これからは、私が多くの愛をいただいたように、ほかの人にも愛をお伝えできたら、と思っています。また、両親にもこの福音を理解してもらえるように努め、天のお父様のもとでいつか一緒に暮らせるよう頑張りたいと思います。

勇気を持って私を教会に誘ってくれた佐々木姉妹に感謝しています。そして天のお父様が姉妹に会わせてくれたことを心から感謝しています。(もとしゆく・まさこ 1967年生まれ、山形ワード部初等協会伴奏者)

編集室から

▶ローカルページの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証などをお送りください。なお、投稿の際、必ず連絡先(電話番号)と教会での責任(役職名)、生年月日を記入してください。

▶あて先: 〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎ 03 (444) 5264

▶お詫びと訂正

5月号ローカルページのJMT C 119期生、池上長老の出身ステークスは大阪堺ステークス部ではなく、大阪ステークスの誤りです。お詫びして訂正いたします。

お知らせ

専任宣教師

JMTC 8月

第121期生13名

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 小柳 慶久	秋田D / 秋田B	名古屋伝道部
2. 北 嶋 保	名古屋西S / 福徳W	東京南伝道部
3. 本 田 貴 嗣	大阪S / 東大阪W	福岡伝道部
4. 松 元 泰 二	福岡S / 北九州W	岡山伝道部
5. 松 井 伸 好	大阪北S / 岡町W	名古屋伝道部
6. 山 本 哲 弥	熊本D / 熊本B	大阪伝道部
7. 川 口 賢 太	大阪北S / 京都路北W	岡山伝道部
8. 中 川 信 幸	大阪北S / 豊中東W	岡山伝道部
9. 駒 屋 真 由 美	名古屋西S / 高畑W	福岡伝道部
10. 泉 美 奈 子	仙台S / 青葉W	名古屋伝道部
11. 磯 村 昭 子	東京北S / 浦和W	札幌伝道部
12. 村 山 久 子	札幌西S / 琴似W	岡山伝道部
13. 大 生 芳 子	岡山S / 岡山W	福岡伝道部



後列左から1〜8 前列左から9〜13 S:ステーク部, D:地方部, W:ワード部, B:支部

移転のお知らせ

ブックセンター
配送センター

資材管理部渋谷ブックセンターは6月12日付、配送センターは8月1日付で下記のとおりに移転しました。

☆ブックセンター移転先
教会管理本部1階

住所: 東京都港区南麻布5-10-30
電話: 03 (440) 2349
業務時間: 月〜金, 午後3:30〜7:00
土・日, 祝祭日休み (神殿団体参入時に特別販売の計画をしています。販売日時については別途ご案内します)



☆配送センター移転先

住所: 神奈川県川崎市高津区溝の口131
電話: 044 (811) 0417
業務時間: 月〜金, 8:30〜17:15
土・日, 祝祭日休み

*お願い

「聖徒の道」の住所変更の連絡および書籍類の発送等についてのお問い合わせは、配送センターまでお願いします。

新役員の任命

5月5日から7月3日までに管理本部会員記録統計課に通知のあった役員の異動 (敬称略)

- 青森地方部青森支部
新支部長: 倉谷弘孝 (前任者: 長内利剛)
- 郡山地方部郡山支部
新支部長: 新田守弘 (前任者: 神山俊二)
- 郡山地方部会津若松支部
新支部長: 小池隆 (前任者: 高橋信行)
- 高崎ステーク部高崎東ワード部
新監督: 松沼文男 (前任者: 熊沢幸雄)
- 東京西ステーク部富士吉田支部
新支部長: 西室要 (前任者: 御影裕文)
- 三重地方部伊勢支部
新支部長: 大谷昌史 (前任者: 作野研一)
- 福知山地方部相生支部
新支部長: 村上清 (前任者: 藪内富士夫)
- 広島ステーク部安古市支部
新支部長: 長沼雅仁 (前任者: 池田勇次)
- 山口地方部下関支部
新支部長: 藤中玲二 (前任者: 吉岡公夫)
- 山口地方部宇部支部
新支部長: 山野道生 (前任者: 渡壁輝正)
- 福岡ステーク部福岡ワード部
新監督: 山口敏男 (前任者: 原三城)
- 福岡ステーク部久留米支部
新支部長: 新原一男 (前任者: 増田久典)
- 福岡ステーク部佐賀支部
新支部長: 高橋泰三 (前任者: 山口徳幸)
- Honshu Japan Servicemen's District Yokosuka Servicemen's Branch
新支部長: Robert K. Hansen III (前任者: Richard T. Warner)

神がなぜ私をこの年まで生き長らえさせてこられたのか、完全にはわかりません。しかし、主が今私に、何らかの方法を講じて必ずやモルモン経を世に広めなければならないという啓示を下しておられることは確かな事実です。

この責任を遂行するために皆さんの力が必要とされています。教会全体すなわちシオンのすべての子が、彼らのために備えられた主の祝福にあずかれるようにするために、力を出すよう求められているのです。

エズラ・タフト・ベンソン大管長